

No.81 「子どもが2歳の今が一番大変、1%でも早く食費を下げてほしい」――広告業でPOSシステムの大変さを知る34歳

対象者プロフィール

氏名	中嶋 浩二
居住地	千葉県市川市
年齢・性別	34歳・男性
職業	会社員（広告）
家族構成	妻（パート）・子1人（2歳）
政治関心/知識	低/低

3分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「広告の仕事でクライアントの販促支援をする中で、小売りのPOSシステムについて話を聞くことがあるんですが、確かにシステム変更は大変」と述べた。「子どもが2歳でこれからお金がかかる時期なので、早い方が助かります」と応じた。

推論：広告マンとして小売りのPOSシステムについて業務知識を持っており、レジシステム説明に即接続した。「早く始まってほしい」という要求が子どもが2歳という時間的な切迫感から来ている。

FD：中嶋にとって消費税1%案への賛成は、広告業での小売りPOS知識からレジシステム理由に即納得し、子どもが2歳でこれから食費も教育費も増える時期の切実さから来ている。職業知識が技術的共感を生み、子育ての現実が早期実現への強い動機を生んでいる。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「子どもが2歳でまだ成長期で食費はこれからどんどん増えますし、妻のパート収入も限られているので」と述べた。「消費税が1%下がれば年間で数千円は変わりますし」と即座に計算した。

推論：食費節約の動機が「これから増える食費への備え」と「妻のパート収入という限られた家計」の二重の根拠から来ている。年間の節約額を即座に計算できる家計管理の習慣が見える。

FD：中嶋における消費税は「子どもの成長に伴って増える食費への備えと、妻がパートという家計の制約の中での節約手段」として位置づけられている。現在の切迫感より将来の増加への備えが動機になっている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「子育て支援の政策が気になります。消費税の話より直接的に子育てに関わる政策の方が関心があります」と述べた。

推論：消費税への関心は子育ての文脈に置かれており、より直接的な子育て支援政策の方が関心として先に来る。広告業の消費者行動分析の視点は対話の中では抑制されており、生活者としての子育て家庭の関心が前面に出ている。

FD：中嶋の高市評価は「1%案は早く始めてほしい、子育て支援も合わせて」という子育て家庭の要求として現れている。食料品消費税への賛成が子育て支援政策への関心の一部として位置づけられており、消費税単独では評価が完結しない。

【全体総括】

根拠：「子どもが小さい今が一番家計が大変な時期なので早く始まってほしい」が一貫して出てくる。広告業での POS 知識がレジシステムへの共感を生んでいる。

推論：中嶋を貫く行動原理は「広告業での小売り POS 知識でレジシステム理由に即納得し、子どもが2歳という子育て真っ只中の切実さで早期実現を求める」だ。職業的な分析視点は控えられており、2歳の子を抱えた生活者としての切実さが評価を主導している。

FD：中嶋浩二を特徴づけるのは「広告業での小売り POS 経験からレジシステム理由に即共感し、子どもが2歳でこれから食費も教育費も増える今が一番大変だから1%で早く始めてほしいと訴える34歳広告マン」だ。「子どもが2歳でこれからお金がかかる時期」という言葉に、職業知識より子育ての現実が評価の核心にある姿が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

中嶋浩二：広告会社で働いています。妻がパートで、子どもが2歳です。市川に住んでいて、子どもが小さいのでお金がかかる時期ですね。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

中嶋浩二：知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにするという公約があって、最近1%案が出ているという話ですね。

M：知っていることを教えてください。

中嶋浩二：ゼロという大きな公約を出したんですが、現実的に難しいということで1%案が出てきているということですね。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

中嶋浩二：子どもが2歳で食費は月6〜7万円くらいかかっています。妻がパートなので、食費は節約したいと思っています。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

中嶋浩二：生活者として食費が下がれば助かります。

M：食料品消費税を1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

中嶋浩二：方向性は良いと思います。ゼロが良かったですが、1%でも下がれば助かります。

M：なぜそう思いますか？

中嶋浩二：子どもが小さくてこれから食費も増えますし、妻がパートなので余裕があるわけじゃないので。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

中嶋浩二：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

中嶋浩二：驚かないですね。ゼロにするには様々な障壁があるだろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

中嶋浩二：評価します。

M：0にできない理由について知りたいですか？

中嶋浩二：知りたいです。

M：なぜ1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

中嶋浩二：知らないです。財政的な問題か、実務的な問題かと思っていました。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約1年かかるためです。0%だと1年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

中嶋浩二：レジのシステムの問題なんですね。広告の仕事でクライアントの販促支援をする中で、小売りのPOSシステムについて話を聞くことがあるんですが、確かにシステム変更は大変なんですよね。全国のスーパーを一斉に変えらなければ相当大変だと思います。1%で半年早く実現できるなら、生活者として早い方が助かります。子どもが2歳でこれからお金がかかる時期なので。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

中嶋浩二：はい、早い方が助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

中嶋浩二：早く決めてほしいです。子どもが小さいので。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

中嶋浩二：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。消費税が社会保障に使われているというのも。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

中嶋浩二：子どもが 2 歳でまだ成長期で食費はこれからどんどん増えますし、妻のパート収入も限られているので、食費が少しでも下がれば助かります。消費税が 1%下がれば年間で数千円は変わりますし。

M：その情報はどこから？

中嶋浩二：自分で計算しています。家計管理は私の方が気にしています。

M：何か実感として感じているものはありますか？

中嶋浩二：物価上昇はすごく感じています。子どもの食材を買うと前より高くなっていて。

M：それについてはどう思いますか？

中嶋浩二：消費税が少しでも下がれば助かります。子どもの食材費が下がれば、将来の教育費に回せます。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

中嶋浩二：就任前はあまり知らなかったですが、食料品消費税ゼロの公約を聞いて「良いことを言うな」と思いました。1%案になったのは「現実的なところに落ち着いた」という感じです。

M：広告のお仕事をされているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

中嶋浩二：子育て支援の政策が気になります。子どもが小さいので、保育料の問題や子育て給付の話は気になります。消費税より直接的に子育てに関わる政策の方が関心があります。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

中嶋浩二：方向性は良いと思います。今日の話で 1%案の理由もわかりました。早く始めてほしいですし、子育て支援も合わせて進めてほしいです。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

中嶋浩二：「食料品の 1%案、早く始めてください。子どもが 2 歳でこれからお金がかかる時期なので。子育て支援も一緒に頑張ってもらいたいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

中嶋浩二：子どもが小さくてこれから食費も教育費も増えていくので、食費が少しでも下がれば助かりますし、子育て支援も大事です。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

中嶋浩二：します。妻は「食費が下がれば助かるね」と言っていました。私が政策の話をするとなかなか「難しいね」と言っていますが。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

中嶋浩二：「1%で半年早く始まるなら、子育て中の今が一番助かる時期だから早く始めてほしい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

中嶋浩二：広告の仕事で POS システムの話は聞いていたので、レジシステムが大変なのはわかります。1%で半年早く始まるなら合理的だと思いますし、子どもが小さい今が一番家計が大変な時期なので早く始まってほしいです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

中嶋浩二：今日の話で 1%案の理由がわかりました。子どもが小さい今が一番お金がかかる時期なので、食費が少しでも下がれば助かります。早く決まってほしいです。

M：ありがとうございました。

No.82 「スーパーのシステム事情は卸業者として知っている、1%案で早く始めてほしい」——子どもの進学を控えた 46 歳食料品卸業者

対象者プロフィール

氏名	西原 義雄
居住地	千葉県船橋市
年齢・性別	46 歳・男性
職業	自営業（食料品卸）
家族構成	妻（事務手伝い）・子 2 人（18 歳・15 歳）
政治関心/知識	中／中

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「取引先のスーパーのシステムが税率変更のたびに大変なのはよく知っています」と述べ、レジシステム説明に即共感。「子どもの進学が近いので、早く始まれば助かります」と応じた。

推論：食料品卸業者として取引先スーパーの POS システム変更の大変さを日常的に知っており、レジシステム理由への共感が強い根拠を持つ。上の子の大学進学という時間的な切迫感が早期実現への動機になっている。

FD：西原にとって消費税 1%案への賛成は、卸業者として取引先スーパーのシステム変更の大変さを業務経験から知っており、レジシステム理由に即納得し、子どもの進学が近い家庭として早期実現を求めている。職業経験が共感の根拠を生み、子育ての現実が切実さを生んでいる。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「卸業者として消費税の仕組みは詳しいですが、今日は家庭の食費という立場でお答えします」と述べた。「子どもの進学費用が近いので、食費が少しでも下がれば助かります」と応じた。

推論：卸業者としての専門知識は持ちながらも、今日の場では家庭の立場に意識的に切り替えている。食費節約の動機が「子どもの進学費用」という具体的な目標に接続されており、年間 1 万円という計算が即座に出てくる。

FD：西原における消費税は「卸業者として事業上の影響も知りながら、家庭では子どもの進学費用のための節約手段」として位置づけられている。二つの立場を意識的に分けており、今日の場では生活者としての判断を前面に出している。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の 1%案は良い方向です。早く決めて実施してほしいです。子どもの進学を控えた家庭として、食費が早く下がれば助かります」がメッセージだと述べた。

推論：消費税 1%案への賛成が「子どもの進学を控えた家庭」という生活者の文脈で一貫して語られている。卸業者としての要求（取引への影響など）は前面に出さず、家庭の立場での評価に収束している。

FD：西原の高市評価は「1%案の理由はわかった、子どもの進学前に早く実施してほしい」という生活者としての要求として現れている。卸業者としての専門知識が共感を生みながら、評価の言葉は家庭の切実さから来ている。

【全体総括】

根拠：「1%案の理由はわかった、早く実施してほしい——子どもの進学前に食費が少しでも下がれば」と締めた。「取引先のスーパーのシステムが税率変更のたびに大変なのはよく知っています」と述べた。

推論：西原を貫く行動原理は「卸業者として取引先スーパーのシステム事情を業務から知っており、レジシステム理由に最も深いレベルで共感しながら、家庭では子どもの進学費用という具体的な目標のために早期実現を求める」だ。

FD：西原義雄を特徴づけるのは「食料品卸業者として取引先スーパーの POS システム変更の大変さを日常的に知っており、レジシステム理由に業務経験から即共感し、子どもの進学が近い家庭として食費を早く下げてほしいと訴える 46 歳」だ。「取引先のスーパーのシステムが税率変更のたびに大変なのはよく知っています」という言葉に、職業経験が技術的共感の最も深い根拠になっている姿が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

西原義雄：食料品の卸業をやっています。妻が事務を手伝ってくれていて、子どもが 18 歳と 15 歳います。卸業なので消費税の話には日常的に関わっています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

西原義雄：よく知っています。食料品の卸業をやっているのです、税率が変わると取引先との価格交渉にも影響しますし、仕入れ・販売の計算が変わるので注目していました。

M：知っていることを教えてください。

西原義雄：高市総理がゼロにするという公約を出して、現実的に 1%案が出てきているという流れですね。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

西原義雄：子どもが二人いて食費は月 7～8 万円くらいかかっています。家庭として食費が下がれば助かります。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

西原義雄：生活者として食費が下がれば助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

西原義雄：方向性は良いと思います。ゼロが良かったですが、1%でも下がれば助かります。

M：なぜそう思いますか？

西原義雄：子どもが二人いてこれから進学でお金がかかりますし、食費が少しでも下がれば助かります。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

西原義雄：覚えています。卸業者としても影響が大きい話なので注目していました。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

西原義雄：驚かないですね。ゼロにするのは実務的に相当大変なことは、卸業者としてもわかっていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

西原義雄：評価します。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

西原義雄：知りたいです。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

西原義雄：レジシステムの問題か、財政的な問題かと思っていました。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

西原義雄：レジの POS システムの話ですね。食料品の卸業をやっているので、取引先のスーパーがどういうシステムを使っているかは知っています。税率が変わるたびに価格表示や請求の仕組みが変わって大変なのはよくわかります。全国のスーパーを一斉に対応させるとなれば、1 年か

かるのは納得できます。1%で半年早く実現できるなら、家庭として食費が早く下がる方が助かります。子どもの進学が近いので。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

西原義雄：そうですね。早く始まる方が助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

西原義雄：早く決めてほしいです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

西原義雄：食料品が8%で他が10%というのは知っています。卸業者として消費税の仕組みは詳しいですが、今日は家庭の食費という立場でお答えします。子どもの進学費用が近いので、食費が少しでも下がれば助かります。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

西原義雄：月7～8万円かかっていて、上の子の進学費用が近づいているので、食費が少しでも下がれば助かります。消費税が1%下がれば年間で1万円近く変わるので。

M：その情報はどこから？

西原義雄：自分で計算しています。卸業の仕事で数字には敏感なので。

M：何か実感として感じているものはありますか？

西原義雄：物価が上がっているのは実感しています。仕入れ価格も上がっているの、家庭でも買い物をすると値段が高くなっているのを感じます。

M：それについてはどう思いますか？

西原義雄：消費税が少しでも下がれば助かります。子どもの進学費用を考えると、少しでも食費が節約できれば。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

西原義雄：就任前から経済に積極的という印象でした。食料品消費税ゼロの公約は卸業者として注目していました。1%案になったのは現実的な修正として理解できます。

M：食料品卸業のお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

西原義雄：今日は家庭の食費の立場でお話しします。子育て家庭への支援として食費が下がることは良いことだと思います。上の子の進学が近いので、早く実施してほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

西原義雄：方向性は良いと思います。今日の理由を聞いて、1%案の合理性はわかりました。早く決まってほしいです。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

西原義雄：「食料品の1%案は良い方向です。早く決めて実施してほしいです。子どもの進学を控えた家庭として、食費が早く下がれば助かります」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

西原義雄：上の子の進学が近くて食費の節約がしたい時期なので、早く始まれば助かります。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

西原義雄：します。妻は「食費が下がれば助かるね」と言っていました。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

西原義雄：「1%案の理由はわかった、早く実施してほしい——子どもの進学前に食費が少しでも下がれば」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

西原義雄：取引先のスーパーのシステムが税率変更のたびに大変なのはよく知っています。1%で半年早く始まるなら合理的ですし、子どもの進学が近い家庭として食費が早く下がれば助かります。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

西原義雄：今日の話で1%案の理由がわかりました。早く決まってほしいです。

M：ありがとうございました。

No.83 「システムの問題なら納得、1%で半年早く食費が下がる方が家計にいい—習い事代がかかる子2人持つ39歳」

対象者プロフィール

氏名	加藤 隆
居住地	千葉県松戸市
年齢・性別	39歳・男性
職業	中学校教員（社会科・公立）
家族構成	妻（保育士）・子2人（9歳・6歳）
政治関心/知識	高／中

3分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「家計として、1%で半年早く始まる方がいいです」と述べた。「政策の実現には様々なハードルがありますし、何らかの修正は想定していました」とも語り、システム問題の説明に「確かに全国の小売店のシステムを変えるのは相当な作業」と受け入れた。

推論：社会科教員として政策のハードルへの想像力があつたため、システム問題の説明が既存の想定と合致した。「家計として」「家計として考えると」という留保を繰り返すことで、知識と生活者視点を意識的に区別している。

FD：加藤にとって消費税1%案への賛成は、社会科教員として政策修正を想定していた上での、習い事代が増えてきた9歳・6歳の子育て家庭としての家計的支持だ。「家計として」という言葉の繰り返しに、知識の豊富さを生活者視点の語りに収めようとする意識が出ている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「月8～9万円の食費で、1%になれば年間6～7万円変わる。子どもの習い事代が増えてきているので、食費が少しでも下がれば助かります」と述べた。妻が保育士で共働きという安定した家計状況も語った。

推論：共働きで比較的安定した家計を持ちながらも、子どもの習い事代という新しい出費が食費節約の使い道として語られた。節約額（年間6～7万円）の把握が正確であり、消費税の知識を持った語り口になっている。

FD：加藤における消費税は「習い事代という新しい出費が増えてきた子育て家庭の、食費節約を活動費への振り替えとして語る家計課題」だ。安定した共働き家計の中でも、子どもの成長に伴う出費増が消費税節約への動機を形成している。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「9 歳の上の子がいずれ中学・高校と進むにつれて教育費がかかってくる。食費の消費税が下がるのは家計として助かりますが、教育費の支援も充実してほしい」と述べた。

推論：高市総理への評価は食料品消費税の方向性への受け入れだが、中学以降の教育費というタイムラインが前景化している。「家計として」という留保を保ちながら、教育費支援という別の政策課題も要求している。

FD：加藤の高市評価は「食費が下がるのは家計として助かる、教育費支援も合わせて充実してほしい」という 9 歳・6 歳の子どもを育てる父親としての複合的な要求だ。消費税節約が教育費支援という別の課題と並列して語られている。

【全体総括】

根拠：「システムの問題なら納得できる、家計として 1%で半年早く始まる方が習い事代がかかる子育て家庭には助かる」と締めた。「9 歳と 6 歳の子どもの習い事代が増えてきています」という言葉が動機の背景を示している。

推論：加藤を貫く行動原理は「社会科教員として政策の実務的ハードルを想像した上で、習い事代が増えてきた 9 歳・6 歳の子育て家庭として、食費節約を習い事費用への振り替えとして語り、ゼロより半年早い 1%を家計の現実から支持する」だ。

FD：加藤隆を特徴づけるのは「社会科教員として政策修正を想定していたためシステム問題の説明が既存の納得感に合致し、「家計として」という留保を繰り返しながら 9 歳・6 歳の習い事代という具体的な使い道を持ってゼロより半年早い 1%を支持した 39 歳」だ。「家計として」という言葉の繰り返しに、知識と生活者視点を意識的に区別する姿勢が出ている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

加藤隆：中学校で社会科を教えています。妻と子どもが二人、9 歳と 6 歳です。松戸市に住んでいます。妻が保育士で共働きです。子どもが大きくなってきて習い事や学校の出費が増えてきています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

加藤隆：知っています。高市総理が食料品消費税ゼロを公約にして、政府内で 1%案が議論されているという話ですね。軽減税率の制度そのものは以前から存在していましたが、ゼロや 1%はその延長上の議論ですね。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

加藤隆：家計として話すと、食費は月 8～9 万円くらいかかっています。9 歳と 6 歳の子どもがいて食費が増えてきています。物価が上がっているのも実感しています。消費税が下がれば家計として助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

加藤隆：家計として助かります。月 8～9 万円の食費で 8%から 1%になれば月 5,000～6,000 円変わります。子どもの習い事代に回せます。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

加藤隆：覚えています。ゼロになったら良かったなと思います。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

加藤隆：驚かなかったです。政策の実現には様々なハードルがありますし、何らかの修正は想定していました。

M：1%になったとしたら、家計として評価しますか？

加藤隆：家計として評価します。8%より助かることは間違いありません。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

加藤隆：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

加藤隆：なるほど、レジシステムの改修という実務的な問題なんですね。確かに全国の小売店のシステムを一斉に変えるのは相当な作業になります。家計として考えると、1%で半年早く始まる方がいいです。9 歳と 6 歳の子どもがいる今の時期に早く始まってほしいですから。

M：まずご家族の食費という立場で聞かせていただけますか。半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

加藤隆：そうですね。家計として早い方が助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

加藤隆：早く確定してほしいです。家計の見通しが立てやすくなるので。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

加藤隆：消費税の制度については把握しています。食料品が 8%で標準税率が 10%という軽減税率の仕組みも知っています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

加藤隆：月 8～9 万円の食費で、1%になれば年間 6～7 万円変わります。妻が保育士で共働きなので家計は比較的安定していますが、子どもの習い事代が増えてきているので、食費が少しでも下がれば助かります。

M：何か実感として感じているものはありますか？

加藤隆：物価が上がっているのは実感しています。スーパーで同じものが前より高くなっているのがわかります。子どもが大きくなって食費も増えているので、消費税が下がれば家計として助かります。

M：それについてはどう思いますか？

加藤隆：家計として食費が少し下がれば助かります。子どもの習い事代が今の家計で増えてきているので。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

加藤隆：積極的な印象があります。食料品消費税の話は家計として良い方向だと思います。

M：9 歳と 6 歳のお子さんを育てる父親という立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

加藤隆：子どもの教育費がどうなるかは気になります。9 歳の上の子がいずれ中学・高校と進むにつれて教育費がかかってきます。食費の消費税が下がるのは家計として助かりますが、教育費の支援も充実してほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

加藤隆：家計として方向性は良いと思います。今日の話でシステムの問題だとわかって、1%案の理由が理解できました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

加藤隆：「食費が少し下がれば家計として助かります。1%案で早く確定してください。子どもの教育費の支援も合わせてお願いしたいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

加藤隆：9 歳と 6 歳の子どもを育てていて、これから教育費がかかってきます。食費が少しでも下がれば、その分を子どものために使えます。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

加藤隆：します。妻も「食費が下がれば家計が楽になる」と言っています。家計については二人で相談しています。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

加藤隆：「システムの問題なら納得できる、家計として 1%で半年早く始まる方が習い事代がかかる子育て家庭には助かる」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

加藤隆：9歳と6歳の子どもの習い事代が増えてきています。システムの問題で半年早く始まるなら、1%の方が今の家計には良いです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

加藤隆：今日の話でシステムの問題だとわかって良かったです。早く確定してほしいです。

M：ありがとうございました。

No.84 「消費税ゼロの話は知らなかったが 1%案の理由はわかった、食品が少し安くなるなら早くやってほしい」——外食コンビニ中心の 30 歳倉庫管理

対象者プロフィール

氏名	村田 利之
居住地	千葉県千葉市
年齢・性別	30 歳・男性
職業	会社員（流通・倉庫管理）
家族構成	妻（パート）・子なし
政治関心/知識	低/低

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：消費税ゼロの公約を知らなかったと述べ、1%案も「初めて聞くかもしれない」と応じた。「倉庫管理の仕事で在庫管理のシステムを使っているので、システムを変えるのが大変なのはわかります」と述べた。

推論：政治への関心が極めて薄く、今日が消費税議論を初めて詳しく聞く機会となった。それでも倉庫管理でのシステム経験からレジシステム説明への共感は自然に出てきた。評価は「早く決めてくれればいい」というシンプルな賛成で、深い思想的背景はない。

FD：村田にとって消費税 1%案への賛成は、政治的な関心から来るものではなく「食品が毎日少し安くなれば助かる」というシンプルな生活実感と、倉庫管理のシステム経験からの技術的共感から成り立っている。評価の深さより、返答の素直さにこの人物の特徴がある。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「外食やコンビニが多いので食費はかかっていますが、あまり計算していません」と述べた。「コンビニで同じものを買うと前より高くなっています」と物価上昇への実感を示した。

推論：スーパーでの買い物より外食・コンビニが中心の生活スタイルが、消費税への関心を薄くしている。それでも日常的に体験しているコンビニでの物価上昇は実感として持っており、食費が下がれば助かるという動機はある。

FD：村田における消費税は「計算したことはないが、コンビニで感じる物価上昇として実感している」という形で存在している。家計管理への関心は薄い、日常の買い物の体験から食費節約への動機が緩やかに生まれている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「正直あまり政治は見ていないです」と述べ、「食品の値段が少しでも安くなれば助かります、早く実施してほしいです」をメッセージとした。

推論：政治への関心も高市総理への評価も薄く、消費税議論を政治の文脈ではなく「食品の値段が下がるかどうか」という生活の文脈でのみ評価している。政治家への要求ではなく、生活への素朴な希望として言葉が出てきている。

FD：村田の高市評価は「政治はわからないが食品が安くなれば助かる」という素朴な生活者の声だ。政策評価の枠組みを持たず、消費税削減を生活費の節約という最もシンプルな形で受け取っている。

【全体総括】

根拠：「知らなかったけど、1%案の理由はわかった——食品が少しでも安くなるなら早くやってほしい」と締めた。

推論：村田を貫く行動原理は「政治への関心は薄く消費税ゼロの議論も知らなかったが、倉庫管理のシステム経験からレジシステム理由に納得し、コンビニ・外食中心の生活で感じる物価上昇から食費節約を歓迎する」だ。複雑な政治評価は持たず、生活の実感がそのまま評価になっている。

FD：村田利之を特徴づけるのは「消費税ゼロの議論を知らず、今日初めて詳しく聞いたが、倉庫管理でのシステム経験から1%案の理由に納得し、外食コンビニ中心の生活で感じる物価上昇から食費節約を素直に歓迎する30歳」だ。「知らなかったけど1%案の理由はわかった」という言葉に、政治への無関心と生活実感への正直さが凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

村田利之：流通の会社で倉庫管理をしています。妻がパートで、二人暮らしです。外食やコンビニが多いですね。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

村田利之：あまり知らないです。

M：何か聞いたことはありましたか？

村田利之：食料品の税金が変わるとか.....そういう話があったんですか？あまり追えていなかったです。

M：高市総理が食料品消費税をゼロにするという公約を出していたのですが、ご存知でしたか？

村田利之：知らなかったです。

M：最近 1%案という話が出ていますが、聞いたことはありましたか？

村田利之：初めて聞くかもしれないです。

M：今日、食料品の消費税についての話をさせていただきます。まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

村田利之：外食とコンビニが多いので、食費は月 5～6 万円くらいですかね。スーパーで買い物する機会は少ないです。

M：食料品の消費税が下がるとしたら、どう思いますか？

村田利之：下がるなら良いと思います。コンビニやスーパーで食品を買う時に少し安くなれば助かりますし。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

村田利之：1%でも下がるなら良いと思います。

M：なぜそう思いますか？

村田利之：食品って毎日買うものなので、少し安くなれば助かります。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

村田利之：レジのシステムの問題なんですね。倉庫管理の仕事で在庫管理のシステムを使っているので、システムを変えるのが大変なのはわかります。1%で半年早く始まるなら、その方がいいと思います。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

村田利之：そうですね、早い方がいいです。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

村田利之：早く決めてくれればいいですけど、どうなるかですね。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

村田利之：食品が 8%で他が 10%というのは知っています。消費税の仕組みは詳しくはないです。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

村田利之：外食やコンビニが多いので食費はかかっていますが、あまり計算していません。消費税が下がれば少し節約になるかなと思います。

M：その情報はどこから？

村田利之：コンビニで買い物した時に何となく感じています。あまり細かく計算はしていません。

M：何か実感として感じているものはありますか？

村田利之：物価が上がっているのは感じます。コンビニで同じものを買うと前より高くなっていますし。

M：それについてはどう思いますか？

村田利之：食費が少し下がれば助かります。外食やコンビニが多いので、少しでも安くなれば。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象はいかがですか？

村田利之：正直あまり政治は見えていないです。テレビで名前を聞く程度で。

M：倉庫管理のお仕事をされているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

村田利之：特に思いつかないですね。物価が下がれば良いなとは思いますが、政治に詳しくないので。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

村田利之：今日の話で1%案の理由がわかったので、良いんじゃないですかね。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

村田利之：「食品の値段が少しでも安くなれば助かります、早く実施してほしいです」ですかね。あまり政治のことはわかりませんが。

M：なぜそう言いたいのですか？

村田利之：外食やコンビニで食事することが多いので、少し安くなれば助かるからです。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

村田利之：あまり政治の話はしないですね。二人とも政治はよくわからないので。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

村田利之：「知らなかったけど、1%案の理由はわかった——食品が少しでも安くなるなら早くやってほしい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

村田利之：倉庫管理のシステムの大変さはわかるので、1%で半年早く始まるなら納得できます。食品の値段が少し下がれば助かりますし。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

村田利之：今日の話で初めて消費税の議論の詳細を聞きました。1%案の理由がわかって良かったです。

M：ありがとうございました。

No.85 確認できるまで信じない——44 歳品質管理職が消費税に突きつける検証の目

対象者プロフィール

氏名	土田 正志
居住地	柏市（千葉県）
年齢	44 歳・男性
職業	会社員（製造・品質管理）
世帯年収	約 680 万
家族構成	妻（パート）・子 3 人（15 歳・12 歳・9 歳）
政治関心/知識	中／低

3 分ブリーフィング

【Part 1】根拠：1%案を「やっぱりそうだったか」と語り、「本当に 1%になるのかもまだ疑っている」と述べた。「実際に 1%になってスーパーで確認できたら、そこで初めて評価する」という条件を明示した。システム理由を聞いて「筋が通っている、最初から説明してくれれば」と述べた。「期待して裏切られる方がきついで、期待しないようにしていた」と語った。／推論：品質管理の職業的習慣（確認するまで信用しない）が政治への態度にそのまま転移している。不信は感情的なものではなく「証拠による検証」を原則とする認識論的パターン。「評価はスーパーのレシートで確認してから」という具体的な行動計画があることが特徴的。／FD：政治への不信が感情的反応ではなく「検証主義」として機能している層。言葉より証拠・事実で動く。説明があれば納得できるが、それでも「実物確認」まで評価を保留する。

【Part 2】根拠：「消費税が下がっても店が値段をそのままにして利益に回すんじゃないか」と述べ、10%導入時に実際にレシートを確認した経験を語った。「確認しきれなくてもやもやしたまま」と述べた。食費の高騰を消費税のせいか食材価格の高騰かで「わけて考えたことがなかった」と語った。消費税が 1%になったら「必ずレシートで確認する」と明言した。／推論：消費税への懐疑は抽象的な不信ではなく過去の具体的な確認行動に基づいている。消費税と物価を一体的に捉えているが「わけて考えたことがなかった」という自覚がある点が山口賢二と異なる。／FD：消費税の仕組みへの理解は不完全だが自ら確認しようとする意欲がある層。正確な情報と確認手段を提供することで理解・評価が変わる可能性が高い。

【Part 3】根拠：高市総理への評価を「言ってることを実行できる人かどうかはまだわからない」と述べた。1%案への変更を「仕様変更」と職業的に捉え「説明なしに変わるのとは一番困るパターン」と語った。メッセージは「言ったことを実行してほしい、変更があるなら理由を最初から説明してほしい」。「子どもたちが大人になった時に政治を信頼できる社会であってほしい」と締めた。／推論：政治家への評価基準が品質管理の仕事と完全に一致している（仕様・説明・実行）。「信頼は積み重ね」という言葉は職業的価値観と政治への期待が重なっている。子ども

への言及は次世代への責任感を示す。／FD：「説明→納得→確認→評価」というプロセスを政治にも求める層。感情より手続き・プロセスで政治を評価する。説明責任の徹底が信頼形成の鍵。

【全体総括】根拠：「確認できるまで信じない」「言葉だけじゃ信用できない」「レシートで確認してから評価する」が一貫したテーマ。品質管理の職業的習慣が生活者としての消費税評価・政治評価の全体を規定している。／推論：感情的な不信ではなく「検証主義」として機能する政治不信の典型例。「期待して裏切られる方がきついので期待しない」という防衛は前田奈緒子と共通するが、前田が「調べるほど傷つく」という感情的回避であるのに対し、土田は「確認できるまで保留」という認知的留保として機能している。／FD：証拠・事実・プロセスで動く層。政策コミュニケーションには「言葉」より「確認できる仕組み」の提示が有効。レシートでの税額表示の明確化など、実物確認できる手段とセットでの政策説明が響く。

発言録

【導入】

M：土田さん、今日はお時間いただきありがとうございます。正解・不正解はありませんので、日頃感じていることをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活で気になっていることや、関心があることは何かありますか？

土田正志：「子どもが3人いるんで、食費がとにかくかかって。上の子が高校生になって食べる量が増えてきて、毎月の食費がじわじわ上がってる感じがします。物価も上がってるし、妻がパートで働いてくれてるんですが、それでもなかなか楽にならなくて。」

【Part 1】食料品消費税の議論への賛否と理由

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？知っていることを教えてください。

土田正志：「はい、知ってます。高市総理が食料品の消費税をゼロにするって言ってたやつですよ。ニュースで見ました。」

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

土田正志：「正直、「本当にそうなるのかな」と思いました。子ども3人いて食費がかかるので、なったらありがたいとは思ったんですが.....政治家の言うことって、選挙が終わったら変わることが多いじゃないですか。だから話半分で聞いてました。」

M：食料品消費税を1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

土田正志：「やっぱりそうなったか、という感じですね。ゼロって言ってたのに。ただ.....1%でも下がるなら助かるのは助かるんですが、「本当に1%になるのか」というのも、まだ疑ってる部分があって。」

M：なぜそう思いますか？

土田正志：「品質管理の仕事をしてるんで、「言ってることと実際が違う」というケースをよく見るんですよね。確認しないと信用できない、というのが習慣になってて。政治の話も同じで、「本当にそうなるのか」と確認できるまでは信じないようにしてるんです。」

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

土田正志：「覚えてます。だから 1%になりそうって聞いた時、「ほら、やっぱり」という気持ちになりました。最初から疑ってたので、驚きはなかったです。」

M：なぜ驚かなかったのですか？

土田正志：「最初から「どうせ変わる」と思って聞いてたので。期待しないようにしてたんです。期待して裏切られる方がきついの。」

M：では、1%になったとしたら評価しますか？

土田正志：「.....実際に 1%になって、スーパーで確認できたら、そこで初めて評価します。今はまだ「本当になるのか」という段階で。」

M：0 にできない理由について知りたいですか？

土田正志：「知りたいです。理由があるなら聞いた上で判断したい。」

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

土田正志：「聞いたことある気がするんですが.....詳しくはわかりません。」

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

土田正志：「.....なるほど。それは筋が通ってますね。システムの問題なら、仕方ない部分はある。品質管理でもシステム変更のたびに検証に時間がかかるので、その感覚はわかります。ただ.....最初からそう説明してくれれば、もう少し信頼できたと思うんですよね。なぜ後から出てくるのか。」

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

土田正志：「理屈ではそうですね。半年早く家計が助かる方がいい。ただ「本当に半年で実現するのか」というのは、実際に確認するまで信用しきれないですけど。」

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

土田正志：「.....やっぱりそうですね。まだ確定じゃないか。決まってから教えてほしい、という気持ちが正直あります。決まる前の話を聞いても、また変わるかもしれないし。」

【Part 2】消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税について、日頃どのような知識や情報をお持ちですか？また、どのようにお考えですか？自由にお話してください。

土田正志：「食料品が 8%で、それ以外が 10%というのは知っています。軽減税率ってやつですよ。なぜ消費税が必要かという、社会保障のためと言われてますよね。ただ.....本当にそこに使われているのかというのは、正直よくわからない。年金とか医療費が良くなった実感が全くないので。」

M：その情報はどこから？

土田正志：「ニュースですね。テレビと、あとスマホで記事を読んだり。ただ情報が多すぎて、どれが正しいのかわからなくなることもあって。品質管理の仕事をしてるので、一次情報じゃないと信用しにくいというのがあって、政治の話は特にどこまで信じていいのか迷うことが多いです。」

M：それについてはどう思いますか？

土田正志：「消費税って、上がる時は「社会保障のため」って言って上がって、でも生活が楽になった感じは一度もないですよ。子どもが 3 人いて、10%に上がった時も「食費の計算が変わった」と妻が言っていて。消費税が下がるなら単純にありがたいんですが、「本当に家計に届くのか」という疑いが先に来てしまいます。」

M：本当に家計に届くのか」という疑いとは、どういう感覚ですか？

土田正志：「消費税が下がっても、お店が値段をそのままにして利益に回したりしないのかな、という。あと、消費税が下がった分、別の税が上がったりするんじゃないかという心配もあります。仕事でも、一か所コストを下げると別の場所に影響が出てることが多くて。全体を見ないと判断できない、という感覚が抜けないんです。」

M：お店が値段をそのままにして利益に回すんじゃないか」とおっしゃいましたが、食料品の買い物でそう感じたことが具体的にありましたか？

土田正志：「.....ありますね。10%に上がった時に、なんか値段が「きれいな数字」じゃなくなったじゃないですか。198 円が 213 円とか。あれを見て「ちゃんと税分だけ上がってるのかな」って確認したくなって。でも確認する方法がないんですよ。店のレシートを見ても、税額は出てるけど、もともとの値段が適正かどうかはわからない。」

M：それはご自身で確認しようとしたんですか？

土田正志：「しましたよ。同じ商品を別の店で比べたり。品質管理の仕事なので、数字が気になる性格で。でも結局「これが正しいのかどうか」を確認しきれなくて、もやもやしたままになってることが多いです。消費税が下がった時も、同じことが起きるんじゃないかと思って。「下がった分、ちゃんと安くなってるのか」を確認したくなると思います。」

M：消費税が1%に下がった場合、実際にスーパーで確認しますか？

土田正志：「します。レシートを見て、税額が変わってるかどうか確認すると思います。それで初めて「本当に下がった」と納得できる。言葉だけじゃ信用できないので。」

M：実感として感じているものはありますか？

土田正志：「食費が上がってるのは実感しています。でもそれが消費税のせいなのか、食材そのものが高くなってるのかは.....正直、わけて考えたことなかったですね。レジで払う時に全部まとめて「高いな」と感じるのです。」

【Part 3】高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

土田正志：「就任したのは知ってます。女性で初めてということで話題になってたし。就任前はあまり知らなかったですけど、消費税ゼロって言ってた人というイメージがついて。印象.....「言ってることを実行できる人なのかどうか」というのがまだわからない、という感じです。」

M：土田さんは品質管理の仕事で「言ってることと実際が違う」ことに厳しい目を持っていると思いますが、その立場から高市総理を見ると、どんなことが気になりますか？

土田正志：「ゼロって言ったのに1%になりそう、というのは.....仕事だったら「仕様変更」になるんですよ。それ自体は現場でもある話ですが、問題は変更の理由と経緯がちゃんと説明されるかどうかで。今回、システムの理由があると聞いてなるほどとは思いましたが、最初から説明してほしかった。説明なしに変わるのは、仕事では一番困るパターンです。」

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

土田正志：「ゼロにしようとしていた姿勢は評価したいんですが.....1%になりそうと聞いた時点では「やっぱり変わった」という印象が先に来ました。理由を聞いてからは少し納得しましたが、「次また変わるんじゃないか」という疑いが完全には消えないですね。実際に1%になって、レシートで確認できて初めて評価できると思います。」

M：今の高市総理に一言メッセージを送るとしたら、何と言いますか？

土田正志：「「言ったことを実行してほしい」ですね。それだけです。変更があるなら理由を最初から説明してほしい。説明があれば納得できる。説明なしに変わるのが一番信頼をなくします。」

M：なぜそう言いたいのですか？

土田正志：「信頼って、積み重ねで作るものだと思っていて。仕事でも、約束を守る人・説明をきちんとする人には信頼が生まれる。政治家も同じだと思うんです。言ったことが変わる、理由が後から出てくる、というのが続くと、最初から信用しなくなる。子どもたちが大人になった時に「政治を信頼できる社会」であってほしいのです。」

【締め】

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

土田正志：「しますよ。妻は「消費税下がるといいね」とは言ってますが、「本当になるの？」という反応で。妻も半信半疑な感じです。子どもの食費がかかるので、なったら助かるという気持ちは同じで。」

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

土田正志：「「確認できるまで信じない」ですかね。消費税の話も、高市総理の話も、実際に自分の目で確かめるまでは保留にしておこうと思っています。」

M：なぜそう思いますか？

土田正志：「仕事で培った習慣だと思います。品質管理って、「言われたことを信じて作業する」ではなくて、「自分で確認して初めて OK を出す」という仕事なんで。それが生活全般に染み込んでいて。政治の話も、「決まった」「下がった」と確認できた時に初めて評価しようと思っています。」

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

土田正志：「消費税が 1% になったら、必ずレシートで確認します。それで本当に下がっていたら、素直に「良かった」と思えると思います。まずそこから、ですね。」

No.86 「1%案の技術的合理性はわかった、財源の手当て説明とセットで支持する」——化学メーカー管理職として経済全体も見る 48歳

対象者プロフィール

氏名	大林 博
居住地	千葉県市川市
年齢・性別	48 歳・男性
職業	会社員（化学メーカー・管理職）
家族構成	妻（会社員）・子 2 人（18 歳・15 歳）
政治関心/知識	高／高

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「POS システムの改修コストと時間の問題ですね。基幹システムのアップデートに時間とコストがかかることはよく経験しています」と述べた。「技術的な合理性があり、かつ半年早く実現できるなら 1%の方が優れた判断です」と応じた。

推論：化学メーカーの管理職として基幹システム更新の経験があり、レジシステム説明への理解が「優れた判断」という評価まで踏み込んでいる。「財源の問題でなくシステムの問題」という確認が安心の根拠になっており、No.70 富田哲夫と同じ「財源安心型」だが、富田より踏み込んだ技術的評価が出ている。

FD：大林にとって消費税 1%案への賛成は、管理職としての基幹システム更新経験からレジシステム理由を「優れた判断」として評価し、財源問題でないという確認で安心感が加わった技術的評価と生活者としての食費節約の組み合わせだ。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「消費税の仕組みから軽減税率の線引き、社会保障財源としての役割まで把握しています」と述べた。「物価上昇は感じています。食費・光熱費が上がっていますし、子どもの受験費用も増えています」と応じた。

推論：消費税への知識が高く、税制変更のたびに社内対応してきた経験がある。上の子の大学受験という時間的な切迫感が個人の生活文脈として出てきており、経済全体の評価と個人の家計への影響が並走している。

FD：大林における消費税は「管理職として制度的に把握している知識」と「子どもの受験費用が重なる家計の現実」が並走している。知識の深さが評価の視野を広げているが、最終的な動機は子育て家庭の生活実感にある。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の 1%案は合理的な判断だと評価します。財源の手当てとセットで説明してほしいですし、産業政策全体として経済の成長も合わせて考えてほしいです」がメッセージだと述べた。

推論：消費税 1%案への賛成と、財源の手当て説明要求・産業政策への要求が並立している。近藤由美子（医療財源）・菊池昭夫（教育財源）・富田哲夫（老後社会保障）と同じ「財源手当て要求」の構造だが、大林の場合は産業政策全体という管理職的な視野が加わっている。

FD：大林の高市評価は「1%案の技術的合理性は支持するが、財源の手当て説明と産業政策全体への目配りも」という管理職的な要求だ。食料品消費税への賛成が「政策全体の整合性」という視野から評価されている。

【全体総括】

根拠：「1%案の技術的合理性はわかった、財源の手当て説明とセットで支持する」と締めた。「基幹システムの更新に時間とコストがかかることは管理職として経験上よくわかります」と述べた。

推論：大林を貫く行動原理は「化学メーカーの管理職として基幹システム更新経験からレジシステム理由を最も深いレベルで評価し、財源・産業政策というマクロな視点と子どもの受験費用という個人の生活が重なる中で政策を評価する」だ。

FD：大林博を特徴づけるのは「化学メーカーの管理職として基幹システム更新経験からレジシステム理由を『優れた判断』と評価し、財源の手当て説明と産業政策全体への目配りを求めながら、子どもの受験が近い家庭として早期実現を歓迎する 48 歳」だ。「技術的な合理性があり、かつ半年早く実現できるなら 1%の方が優れた判断です」という言葉に、管理職としての政策評価の視野の深さが凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

大林博：化学メーカーで管理職をしています。妻も会社員で共働きです。子どもが 18 歳と 15 歳います。上の子が来年大学受験です。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

大林博：もちろんです。高市総理の食料品消費税ゼロの公約も、最近の 1%案の議論も把握しています。

M：知っていることを教えてください。

大林博：高市総理が選挙公約として食料品消費税ゼロを掲げ、政策実現の過程でさまざまな制約から1%案が浮上してきているという流れですね。管理職として政策動向は常に追っています。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

大林博：共働きで子どもが二人います。食費は月8～9万円くらいかかっています。上の子の大学受験が近いので、多少の節約は助かります。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

大林博：方向性としては良いことだと思います。生活者として食費が下がれば助かります。

M：食料品消費税を1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

大林博：評価します。ゼロに比べてリスクを抑えつつ実現できるなら、現実的な判断だと思います。

M：なぜそう思いますか？

大林博：子どもの受験費用と重なっている時期なので食費の節約は助かりますし、政策としても段階的な実現が現実的だと思います。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

大林博：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

大林博：驚かないですね。ゼロにすることの実務的・財政的な困難さは最初からわかっていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

大林博：評価します。

M：0にできない理由について知りたいですか？

大林博：知りたいです。財政的な問題かシステムの問題か興味があります。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約1年かかるためです。0%だと1年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

大林博：POSシステムの改修コストと時間の問題ですね。化学メーカーの管理職として、基幹システムのアップデートに時間とコストがかかることはよく経験しています。全国の小売業者のレジシステムを一斉に変えるとなれば、確かに相当な時間と費用がかかる。財源の問題でなくシス

テムの問題というのは、政策の合理性という観点から理解できます。1%で半年早く実現できるなら、合理的な判断だと評価します。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

大林博：そうですね。技術的な合理性があり、かつ半年早く実現できるなら 1%の方が優れた判断です。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

大林博：早く確定してほしいですね。政策の不確実性は経済全体にとって良くないので。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

大林博：消費税の仕組みから軽減税率の線引き、社会保障財源としての役割まで把握しています。会社の総務・財務部門との連携で税制変更のたびに社内対応してきた経験もあります。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

大林博：月 8～9 万円の食費で、消費税が 1%変われば年間 1 万円程度の節約になります。上の子の受験費用が重なっている今は助かります。物価上昇で食費が増えている実感もありますし。

M：その情報はどこから？

大林博：ニュースや経済情報を日常的に追っています。管理職として政策動向は仕事の一部でもあります。

M：何か実感として感じているものはありますか？

大林博：物価上昇は感じています。食費・光熱費が上がっていますし、子どもの受験費用も増えています。

M：それについてはどう思いますか？

大林博：消費税が下がれば多少の助けにはなります。生活者として食費が下がれば助かります。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

大林博：就任前から経済政策に積極的という印象でした。食料品消費税ゼロの公約は「強いシグナルを出した」と見ていましたが、実現への道筋が大切だと思っていました。1%案は現実的な修正として評価します。今日の理由を聞いて、技術的な根拠があることはわかりました。

M：化学メーカーの管理職というお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

大林博：法人税や研究開発投資への政策が気になります。食料品消費税の話とは別ですが、産業政策全体として考えてほしいですし、財源の手当ても合わせて示してほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

大林博：方向性は良いと思います。今日の理由を聞いて、技術的な合理性に基づいた判断であることはわかりました。財源の手当ても合わせて示してほしいとは思いますが、方向性は評価します。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

大林博：「食料品の1%案は合理的な判断だと評価します。財源の手当てとセットで説明してほしいですし、産業政策全体として経済の成長も合わせて考えてほしいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

大林博：政策の合理性を評価しますが、財源の問題と産業全体への影響もセットで考えてほしいからです。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

大林博：します。妻は「食費が下がれば助かるね」と言っていました。私が政策全体の話をする
と「難しいね」と言っていました。方向性として良いとは言っていました。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

大林博：「1%案の技術的合理性はわかった、財源の手当て説明とセットで支持する」ですかね。
。

M：なぜそう思いますか？

大林博：基幹システムの更新に時間とコストがかかることは管理職として経験上よくわかります。
。1%で半年早く実現できるという判断は合理的です。財源の問題でないとわかったことは一安心ですが、財政全体の手当てについても明示してほしいです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

大林博：今日の話で1%案の技術的な根拠がわかって、評価が高まりました。子どもの受験が近い家庭としても、早く確定して食費が少し下がれば助かります。

M：ありがとうございました。

No.87 「保育士の給与が低くて家計は余裕がない、だから 1%でも早く食費を下げてほしい」——処遇改善も訴える 37 歳男性保育士

対象者プロフィール

氏名	橘 直樹
居住地	千葉県船橋市
年齢・性別	37 歳・男性
職業	保育士（男性・正職員）
家族構成	妻（会社員）・子なし
政治関心/知識	中／低

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「保育園でもシステムの更新が大変で、保育記録や連絡帳のデジタル化のたびに覚え直しが大変でした」と述べ、レジシステム説明に共感。「保育士の給与が低い立場からは早い方が助かります」と応じた。

推論：保育園でのシステム更新経験がレジシステムへの共感の根拠になっている。「保育士の給与が低い」という家計の制約が早期実現への切実な動機を生んでいる。1%案への賛成が家計の苦しさという個人的な背景から来ており、給与が低い専門職の経済的切実さが評価の核心にある。

FD：橘にとって消費税 1%案への賛成は、保育園でのシステム更新経験からレジシステム理由に共感し、保育士の給与が低く妻の収入に頼る家計の制約から食費節約を切実に求めている。低賃金専門職の日常の苦しさが政策評価の最大の文脈になっている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「保育士の給与が低いので、家計は妻の方が稼いでいます」と述べた。「物価が上がって給与が上がらない保育士の立場からは、少しでも食費が下がってほしいです」と応じた。

推論：「物価上昇×給与停滞」という保育士固有の構造的な苦しさが、消費税削減への動機を強めている。年間数千円という計算が即座に出てきており、家計管理の必要性から生まれた感度がある。

FD：橘における消費税は「物価に連動しない低賃金専門職として、わずかな食費節約も重要な家計改善手段」として位置づけられている。消費税削減の効果は微小でも、保育士の給与問題という構造的な苦しさの文脈に置かれると意味が大きくなる。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「保育士の処遇改善が一番気になります。食料品消費税の話は大事ですが、保育士の処遇を改善してほしいというのが一番の要望です」と述べた。

推論：消費税 1%案への賛成と保育士処遇改善への要求が並立している。食費節約への賛成が「保育士の給与が低い家計」という文脈に置かれており、より根本的な要求として処遇改善が前面に出てくる。

FD：橘の高市評価は「1%案は早く始めてほしい、保育士の処遇改善も一緒に」という並列要求だ。食料品消費税への賛成は保育士の処遇問題という最大の関心事の一部として位置づけられており、消費税単独では評価が完結しない。

【全体総括】

根拠：「1%案の理由はわかった、保育士の給与が低い立場からは食費が少しでも下がるなら早く始めてほしい」と締めた。

推論：橘を貫く行動原理は「保育士の給与が低く物価上昇に追いつかない中で、保育園でのシステム更新経験からレジシステム理由に共感し、わずかな食費節約でも重要な家計改善として早期実現を求める」だ。低賃金専門職の日常の苦しさが、わずかな食費節約への切実さを生んでいる。

FD：橘直樹を特徴づけるのは「保育園でのシステム更新経験からレジシステムに共感し、保育士の低賃金という家計の制約の中で 1%でも早く食費を下げてほしいと訴え、処遇改善も手放さない 37 歳男性保育士」だ。「物価が上がって給与が上がらない保育士の立場からは」という言葉に、低賃金専門職の構造的な苦しさが凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

橘直樹：保育士をしています。男性の保育士で正職員です。妻が会社員で共働きで、子どもはまだいないです。船橋に住んでいます。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

橘直樹：知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにするって言っていたのも、最近 1%案が出ているのも。

M：知っていることを教えてください。

橘直樹：ゼロという公約があって、1%案になってきているという流れですね。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

橘直樹：保育士の給与は低いので、共働きでも食費は月 5～6 万円くらいかかっています。消費税が下がれば助かりますね。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

橘直樹：食費が下がれば助かります。保育士の給与が低いので家計は妻の収入に頼っている部分が大きく、食費の節約は助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

橘直樹：方向性は良いと思います。ゼロが良かったですが、1%でも下がれば助かります。

M：なぜそう思いますか？

橘直樹：保育士の給与が低くて家計は余裕がないので、食費が少しでも下がれば助かります。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

橘直樹：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

橘直樹：「やっぱりそうなるか」という感じです。政治家の約束は全部は実現できないとわかっているのです。

M：1%になったとしたら評価しますか？

橘直樹：評価します。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

橘直樹：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

橘直樹：レジのシステムの問題なんですね。保育園でもシステムの更新が大変で、保育記録や連絡帳のデジタル化のたびに覚え直しが大変でした。全国のスーパーを一斉に変えとなれば確かに大変ですね。1%で半年早く始まるなら、保育士の給与が低い立場からは早い方が助かります。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

橘直樹：はい、早く始まる方が助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

橘直樹：早く決めてほしいです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

橘直樹：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。消費税が何に使われているかは大体知っています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

橘直樹：保育士の給与が低いので、家計は妻の方が稼いでいます。食費が少しでも下がれば助かりますし、消費税が 1%下がれば年間で数千円の節約になりますし。

M：その情報はどこから？

橘直樹：自分で計算しています。家計管理はしっかりしないといけないので。

M：何か実感として感じているものはありますか？

橘直樹：物価が上がっているのは感じています。同じものが前より高くなっていますし、保育士の給与は物価に連動して上がらないので、実質的に生活が苦しくなっている感覚があります。

M：それについてはどう思いますか？

橘直樹：消費税が少しでも下がれば助かります。物価が上がって給与が上がらない保育士の立場からは、少しでも食費が下がってほしいです。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

橘直樹：就任前はあまり知らなかったですが、食料品消費税ゼロの公約を聞いて「庶民の生活を考えてくれているのかな」と思いました。1%案になったのは残念ですが、理由があればわかります。

M：保育士というお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

橘直樹：保育士の処遇改善が一番気になります。保育士の給与は他の専門職と比べて低く、人材不足が続いています。食料品消費税の話は大事ですが、保育士の処遇を改善してほしいというのが一番の要望です。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

橘直樹：方向性は良いと思います。今日のシステムの話聞いて、1%案の理由もわかりました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと伝えますか？

橘直樹：「食料品の 1%案、早く始めてください。保育士の給与が低くて家計が苦しいので、食費が少しでも下がれば助かります。保育士の処遇改善も一緒に進めてほしいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

橘直樹：保育士の給与が低くて物価上昇に追いつかないので、食費の節約は家計に直結します。保育士の処遇改善も切実な問題です。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

橘直樹：します。妻は「食費が下がれば助かるね」と言っていました。保育士の処遇の話をする
と「大変だね」と言っていますが。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

橘直樹：「1%案の理由はわかった、保育士の給与が低い立場からは食費が少しでも下がるなら
早く始めてほしい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

橘直樹：保育園のシステム更新の大変さを知っているので、レジシステムの話はわかります。
1%で半年早く始まるなら早い方が助かります。保育士の給与が低いので家計は余裕がなく、食
費の節約は助かります。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

橘直樹：今日の話で 1%案の理由がわかりました。保育士として給与が低い立場から、食費が少
しでも下がれば助かります。保育士の処遇改善も合わせて進んでほしいです。

M：ありがとうございました。

No.88 「1%案の理由はわかった、子どもが二人いるから食費が少しでも下がれば助かる」——歯科医院の電子カルテ更新を知る 41歳技術職

対象者プロフィール

氏名	三上 孝夫
居住地	千葉県松戸市
年齢・性別	41 歳・男性
職業	歯科医院勤務（技術職・歯科技工士）
家族構成	妻（専業主婦）・子 2 人（11 歳・8 歳）
政治関心/知識	低/低

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「歯科医院でも電子カルテの更新に時間がかかって大変でした」と述べ、レジシステム説明に共感。「1%で半年早く始まるなら、その方がいいですね。妻が喜ぶと思います」と応じた。

推論：歯科医院での電子カルテ更新経験がレジシステムへの共感の根拠になっている。政治への関心が薄く食費は妻が管理しているため、評価の言葉が「妻が喜ぶ」という形で出てきた。自分自身の判断より家庭全体への影響という表現になっている。

FD：三上にとって消費税 1%案への賛成は、歯科医院での電子カルテ更新経験からレジシステム理由に共感し、食費は妻が管理する家庭として「妻が喜ぶ」という形で早期実現を歓迎している。政治への関心は薄く、判断の主体が「家庭（妻）」として語られる。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「食費は妻が管理しているので詳しくはわかりませんが、子どもが二人いてかかっているのはわかります」と述べた。「消費税が下がれば妻が喜ぶと思いますし、家計として助かります」と応じた。

推論：消費税への関心は妻を経由した形で「家計への影響」として表現されている。子どもが二人いることは明確に認識されているが、具体的な食費の金額は把握できていない。評価が「自分が節約できる」より「妻が喜ぶ」という形で出てくる。

FD：三上における消費税は「妻が管理する家計への影響として、家庭全体の問題」として位置づけられている。自分自身の家計感覚より「妻が喜ぶかどうか」という間接的な評価の形が、政治への無関心と家庭内での役割分担を同時に反映している。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「歯科の医療費の負担が気になります。歯科は保険が利かない治療が多いので、患者さんの負担が大きいですね」と述べた。

推論：食料品消費税への関心は薄いですが、歯科技工士として患者の医療費負担という職業的関心が出てきた。政治への関心は薄く「今日話を聞いて良い方向だと思います」という穏やかな評価にとどまっている。

FD：三上の高市評価は「食費が下がれば妻が喜ぶ、早く決まれば良い」というシンプルで穏やかな支持だ。歯科の医療費という職業的関心は出るが、政治的な要求として強く訴える形にはならない。政治への低い関心が、評価全体を穏やかで遠慮がちな形にしている。

【全体総括】

根拠：「1%案の理由はわかった、子どもが二人いるので食費が少しでも下がれば妻が喜ぶ」と締めた。「歯科医院の電子カルテの更新が大変だったので、レジシステムの話はわかります」と述べた。

推論：三上を貫く行動原理は「政治への関心は薄く食費も妻が管理しているが、歯科医院での電子カルテ経験からレジシステムに共感し、子どもが二人いる家庭として『妻が喜ぶ』という形で食費節約を歓迎する」だ。自分の判断より家庭（妻）への影響という言葉で政策評価が表現される。

FD：三上孝夫を特徴づけるのは「政治への関心は薄く食費は妻が管理しているが、歯科医院での電子カルテ更新経験からレジシステム理由に共感し、子どもが二人いる家庭として食費が下がれば妻が喜ぶと素直に語る 41 歳歯科技工士」だ。「妻が喜ぶと思います」という言葉に、政治の評価を自分ではなく家庭を通して語る姿が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

三上孝夫：歯科医院で歯科技工士をしています。妻が専業主婦で、子どもが 11 歳と 8 歳います。松戸に住んでいます。仕事に集中していて政治はあまり見ていないですね。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

三上孝夫：なんとなく知っています。食べ物の税金が変わるとかという話は聞きました。

M：知っていることを教えてください。

三上孝夫：高市総理が食料品の消費税を安くするとか.....そういう話ですよね？詳しくは追えていないです。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

三上孝夫：食費は妻が管理しているので正確にはわかりませんが、子どもが二人いて月 7～8 万円くらいだと思います。消費税が下がれば助かりますよね。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

三上孝夫：良いことだと思います。食費が下がれば助かるので。

M：なぜそう思いますか？

三上孝夫：子どもが二人いて食費はかかりますし、少し下がれば助かります。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

三上孝夫：そういえばそんな話があったような気がします。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

三上孝夫：特に驚かないですね。ゼロというのは難しいんだろうなとは思っていました。

M：1%になったとしたら評価しますか？

三上孝夫：評価します。下がることはいいことですから。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

三上孝夫：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

三上孝夫：ああ、レジのシステムの問題なんですね。歯科医院でも電子カルテの更新に時間がかかって大変でした。全国のスーパーを一斉に変えるとなれば確かに大変ですね。1%で半年早く始まるなら、その方がいいですね。妻が喜ぶと思います。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

三上孝夫：そうですね。早く始まる方がいいと思います。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

三上孝夫：早く決まれば良いですね。妻が喜ぶと思います。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

三上孝夫：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。消費税の詳しい話は妻の方が詳しいと思いますが。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

三上孝夫：食費は妻が管理しているので詳しくはわかりませんが、子どもが二人いてかかっているのはわかります。消費税が下がれば妻が喜ぶと思いますし、家計として助かります。

M：その情報はどこから？

三上孝夫：スーパーで妻と一緒に買い物する時に、同じものが前より高くなっているのは感じます。物価が上がっているんだなと。

M：何か実感として感じているものはありますか？

三上孝夫：スーパーで買い物する時に値段が上がっているのは感じます。

M：それについてはどう思いますか？

三上孝夫：消費税が少しでも下がれば助かります。妻が食費を管理してくれているので、妻が「安くなった」と喜べば家計として良いことだと思います。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

三上孝夫：あまり政治は見えていないので印象があまりないですが、食料品の税金が下がるという話は良いと思いました。

M：歯科技工士というお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

三上孝夫：歯科の医療費の負担が気になります。歯科は保険が利かない治療が多いので、患者さんの負担が大きいですね。食料品消費税の話とは別ですが、医療費の負担の話も気になります。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

三上孝夫：今日の話聞いて、良い方向だと思います。早く決まってほしいです。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

三上孝夫：「食料品の 1%案、早く始めてください。子どもが二人いて食費がかかるので、少し安くなれば助かります」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

三上孝夫：子どもが二人いて食費はかかりますし、妻が家計を管理してくれているので、食費が少し下がれば妻が喜ぶと思います。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

三上孝夫：します。妻は「食費が少し下がれば助かるね」と言っていました。妻の方が家計に詳しいので、妻がメインで話しています。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

三上孝夫：「1%案の理由はわかった、子どもが二人いるので食費が少しでも下がれば妻が喜ぶ」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

三上孝夫：歯科医院の電子カルテの更新が大変だったので、レジシステムの話はわかります。1%で半年早く始まるなら良いですし、食費が下がれば妻が喜びます。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

三上孝夫：今日の話で1%案の理由がわかって良かったです。政治はあまり見ていないですが、食費が下がることは良いことだと思います。早く決まれば良いですね。

M：ありがとうございました。

No.89 「ゼロはシステムの特別な処理が必要と知っているから、1%案は技術的に正しいと思う」——IT セキュリティの 33 歳

対象者プロフィール

氏名	渡辺 康太
居住地	千葉県千葉市
年齢・性別	33 歳・男性
職業	会社員（IT・セキュリティ）
家族構成	妻（会社員）・子なし
政治関心/知識	中／中

3 ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「税率ゼロというのはシステム的には特別な処理が必要になる場合があります。1%なら通常の税率変更の範囲内で処理できますが、ゼロだと例外処理として組む必要がある部分が出てくる可能性がある」と述べた。

推論：IT セキュリティの仕事でシステムの更新・変更を扱う経験から、「税率ゼロがなぜ難しいか」を自ら技術的に分析している。レジシステム説明を聞く前から「ゼロにするとシステム的な問題があるのかな」と予感していたことが、説明後の「納得」を深くしている。

FD：渡辺にとって消費税 1%案への賛成は、IT セキュリティ職として税率ゼロのシステム的な複雑さを自ら推測できる立場から「技術的に正しい判断」として確信を持った評価だ。生活への切迫感より技術的合理性の評価が先に来ている点で、100 名の中で最も「納得の深さ」が異なる。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「将来子どもができれば食費が増えるので、今から食料品の消費税が下がっていれば将来の備えになります」と述べた。

推論：現在は子どもがいないため食費への切迫感は低いが、将来設計として食費節約の動機が形成されている。物価上昇は「スーパーで同じものが前より高くなっているのがわかります」とシンプルに実感している。

FD：渡辺における消費税は「現在より将来の子育て設計への備え」として位置づけられている。技術的评价が先に来る一方で、生活者としての動機は将来の子育て計画という穏やかな形で出てくる。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の 1%案、技術的な合理性があって良い判断だと思います。早く確定してほしいですし、サイバーセキュリティへの投資もセットで進めてほしいです」がメッセージだと述べた。

推論：消費税 1%案への技術的評価とサイバーセキュリティへの要求が並立している。IT 業界に
いることで消費税への評価がシステム技術の観点に向かい、そこから本職であるサイバーセキュ
リティ政策への要求が自然に出てくる。

FD：渡辺の高市評価は「1%案は技術的に正しい、サイバーセキュリティも進めて」という技術
者的な並列評価だ。消費税への賛成が生活実感より技術的合理性から来ており、評価の深さと確
信度が他の回答者と異なっている。

【全体総括】

根拠：「ゼロはシステムの特別処理が必要になる可能性があるので、1%で半年早く始まるな
ら正しい選択だと思います」と締めた。

推論：渡辺を貫く行動原理は「IT セキュリティ職として税率ゼロのシステムの複雑さを自ら分析
でき、レジシステム説明で確信が深まり、技術的に正しい判断として 1%案を支持する」だ。100
名の中で最も技術的根拠から評価が形成されている。

FD：渡辺康太を特徴づけるのは「IT セキュリティの仕事で税率ゼロがシステムの例外処理が必
要になると自ら推測しており、レジシステム説明で確信が深まった 33 歳」だ。「ゼロはシステ
ムの特別な処理が必要になる場合があります」という言葉に、技術者として政策を最も深く評
価した視点が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそ
のままお話しただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

渡辺康太：IT セキュリティの会社で働いています。妻も会社員で共働きです。子どもはまだいな
いです。千葉市に住んでいます。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

渡辺康太：知っています。高市総理の食料品消費税ゼロの公約も、最近の 1%案も把握していま
す。

M：知っていることを教えてください。

渡辺康太：ゼロという公約が出て、現実的に 1%案になってきているという流れですね。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

渡辺康太：共働きで二人暮らしなので食費は月 5～6 万円くらいです。消費税が下がれば少し節約になります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

渡辺康太：方向性は良いと思います。1%でも下がれば節約になりますし、将来子どもができれば食費も増えるので。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

渡辺康太：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

渡辺康太：驚かないですね。ゼロにするには様々な問題があるだろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

渡辺康太：評価します。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

渡辺康太：知りたいです。実は IT セキュリティの仕事でシステムの影響を考えてしまうので、ゼロという設定にすると何かシステム的な問題があるのかなと思っていました。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

渡辺康太：知らないですが、システム的な問題がある気はしていました。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

渡辺康太：なるほど、POS システムの問題ですね。IT セキュリティの仕事でシステムの更新・変更を扱うことがあるんですが、税率ゼロというのはシステム的には特別な処理が必要になる場合があります。1%なら通常の税率変更の範囲内で処理できますが、ゼロだと例外処理として組む必要がある部分が出てくる可能性がある。改修に時間がかかるというのは技術的に納得できます。1%で半年早く始まるなら合理的な判断だと思います。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

渡辺康太：そうですね。技術的な合理性があれば 1%の方が良いと思います。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

渡辺康太：早く決めてほしいですね。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

渡辺康太：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。今日の話で財源の問題でなくシステムの問題とわかって納得しました。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

渡辺康太：二人暮らしなので食費は多くないですが、将来子どもができれば増えるので、今から食料品の消費税が下がっていれば将来の備えになります。消費税が 1%下がれば年間で数千円の節約になりますし。

M：その情報はどこから？

渡辺康太：自分で計算しています。ニュースも追っています。

M：何か実感として感じているものはありますか？

渡辺康太：物価が上がっているのは感じています。スーパーで同じものが前より高くなっているのがわかります。

M：それについてはどう思いますか？

渡辺康太：消費税が少しでも下がれば助かります。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

渡辺康太：就任前から経済に積極的という印象でした。1%案は現実的な修正として理解できます。今日の技術的な理由を聞いて評価が高まりました。

M：IT セキュリティのお仕事をされているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

渡辺康太：サイバーセキュリティ政策が気になります。デジタル化が進む中でセキュリティへの投資が重要だと思っています。食料品消費税の話とは別ですが、合わせて進めてほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

渡辺康太：方向性は良いと思います。今日の話で技術的な根拠がわかって、1%案の合理性は理解できました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

渡辺康太：「食料品の 1%案、技術的な合理性があって良い判断だと思います。早く確定してほしいですし、サイバーセキュリティへの投資もセットで進めてほしいです」ですね。

M：なぜそう言いたいのですか？

渡辺康太：技術的な合理性がある政策は評価しますし、デジタル化の時代にセキュリティへの投資も重要だと思っているからです。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

渡辺康太：します。妻は「食費が下がれば助かるね」と言っていました。私がシステムの話をするると「難しいね」と言っていますが。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

渡辺康太：「1%案の技術的な理由は IT の仕事でよくわかった、合理的な判断として支持する」ですかね。ゼロはシステムの的に特別処理が必要になる可能性があるので、1%で半年早く始まるなら正しい選択だと思います。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

渡辺康太：今日の話で 1%案の技術的な根拠がわかって良かったです。IT セキュリティの仕事をしているので、システムの問題という理由は最もよく理解できます。早く確定してほしいです。

M：ありがとうございました。

No.90 「スーパー店長として 1%案の理由は一番よくわかる、現場にも家庭にも早く確定してほしい」――47 歳スーパー店長

対象者プロフィール

氏名	池田 達也
居住地	千葉県柏市
年齢・性別	47 歳・男性
職業	小売業（スーパー店長）
家族構成	妻（パート・同店勤務）・子 2 人（18 歳・15 歳）
政治関心/知識	中／中

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「税率変更のたびに価格表示の変更・レジシステムの更新・値段のシール貼り替えなど現場の作業は膨大」と述べ、レジシステム説明に対し「それは絶対そうですよ。ゼロにするとすれば特別対応が必要になります」と即座に共感した。「1%で半年早く確定してもらえれば、現場の準備も家庭の食費節約も早く始まります」と両面から支持した。

推論：スーパー店長として消費税変更の現場負担を自ら経験しており、1%案の合理性を「当事者として当然の判断」として受け取っている。家計への影響と現場の準備期間という二つの観点が同時に出てくるのは、生活者と事業者の視点を一人で持つ立場ならではだ。

FD：池田にとって消費税 1%案への賛成は、スーパー店長として消費税変更の現場作業の膨大さを身体で知っており、レジシステム説明を「当事者として当然の判断」として受け取り、現場と家計の両面から早期確定を求める切実な賛成だ。100 名中最も直接的なレジシステム当事者として、説明に対する納得の即座さと深さが際立っている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「軽減税率が始まった 2019 年の時も、店内調理品の線引きで本当に大変でした」と述べた。「食費は月 7～8 万円くらいで、消費税が下がれば少し助かります」と応じた。

推論：2019 年輕減税率導入時の現場経験が、消費税変更の影響を具体的に語る根拠になっている。世帯年収 680 万円・子 2 人という家計状況から、食費節約への動機は切実ではないが「少し助かる」という穏やかな実感がある。現場知識が豊富なため、生活者としての語りより事業者目線が先に出やすい。

FD：池田における消費税は「スーパー店長として軽減税率の現場対応を経験した知識」と「子ども 2 人がいる家庭の食費節約」が並走している。軽減税率の線引き問題という実務経験が、消費税制度への理解を深めている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品消費税の話は現場をわかって決めてもらいたいです。1%案の理由がレジシステムの問題と聞いて、現場を見ている政策だと思いました」と述べた。

推論：「現場を見ている政策」という評価は、スーパー店長として消費税変更対応を繰り返してきた経験から出た言葉だ。1%案の理由を知ること、政策立案側が現場の制約を考慮した判断をしていることへの信頼感が生まれている。

FD：池田の高市評価は「1%案の理由がレジシステムの問題とわかり、現場を見ている政策と評価する」というスーパー店長ならではの当事者的な支持だ。食料品消費税への賛成が「現場の事情を知っている政策判断」という信頼として評価されている。

【全体総括】

根拠：「1%で半年早く確定してもらえれば、現場の準備も家庭の食費節約も早く始まります」と締めた。「ゼロにするには特別対応が必要になります」という言葉が、スーパー店長として当事者の視点から出てきた。

推論：池田を貫く行動原理は「スーパー店長として消費税変更のたびに膨大な現場作業を経験しており、レジシステム改修の大変さを最もリアルに知る立場から、1%案の合理性を現場と家庭の両面で支持する」だ。100名中最もレジシステム問題の当事者として、説明への納得が最も即座だった。

FD：池田達也を特徴づけるのは「スーパー店長として消費税変更のたびに価格表示・レジ更新・シール貼り替えの膨大な現場作業を経験し、1%案の理由をレジシステムの問題として最も深く理解し、現場にも家庭にも早く確定してほしいと両面から求める47歳」だ。「1%で半年早く確定してもらえれば、現場の準備も家庭の食費節約も早く始まります」という言葉に、当事者として最もリアルな支持が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

池田達也：スーパーの店長をしています。妻も同じ店でパートをしていて、子どもが18歳と15歳います。柏に住んでいます。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

池田達也：もちろん知っています。店長として関係が深いので。高市総理のゼロという公約も、最近の1%案の話も追っています。

M：知っていることを教えてください。

池田達也：ゼロという大きな公約が出て、現実的な議論として 1%案が出てきているという流れですね。うちの店のレジのことも考えながら見ていました。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

池田達也：家族 4 人で月 7～8 万円くらいかかっています。消費税が下がれば少し助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

池田達也：良いと思います。食費が下がるのは助かりますし、現場の準備という観点からも 1%の方が現実的だと思っていました。

M：なぜそう思いますか？

池田達也：税率変更のたびに価格表示の変更・レジシステムの更新・値段のシール貼り替えなど現場の作業は膨大なんです。ゼロとなれば特別な対応が必要になる気がしていました。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

池田達也：覚えています。店長として「どうやって対応するんだ」と思っていました。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

池田達也：驚かないですね。むしろ「そうなるよな」という感じです。ゼロというのはシステムの的にも難しいだろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

池田達也：評価します。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

池田達也：知りたいです。システムの問題だろうとは思っていましたが。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

池田達也：それは絶対そうですよ。ゼロにするとなれば特別対応が必要になります。2019 年に軽減税率が始まった時も、うちの店でもレジの改修や価格表示の変更で大変でした。店内調理品が 8%か 10%かの線引きで本当に悩みましたし。全国のスーパーが一斉に対応するとなれば、確かに時間がかかります。1%で半年早く確定してもらえれば、現場の準備も家庭の食費節約も早く始まります。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

池田達也：そうです。現場の立場からも家庭の立場からも、早く確定してほしいです。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

池田達也：早く決めてほしいです。現場の準備も時間がかかるので、早く確定してもらわないと困ります。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

池田達也：食料品が 8%で他が 10%というのは当然知っています。軽減税率の仕組みも、現場で対応してきたので詳しいです。2019 年の軽減税率導入の時は本当に大変でした。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

池田達也：月 7～8 万円の食費で、消費税が 1%変われば年間数千円の節約になります。子どもが高校生と中学生で食費はまだかかりますし、助かります。

M：その情報はどこから？

池田達也：自分で計算しています。仕事柄、商品の価格と税率の関係は敏感です。

M：何か実感として感じているものはありますか？

池田達也：物価が上がっているのは毎日実感しています。仕入れ価格が上がって店の価格にも反映せざるを得ない状況が続いています。お客さんからも「高くなったね」と言われます。

M：それについてはどう思いますか？

池田達也：消費税が下がれば、家計としても助かりますし、店としてもお客さんに少し還元できる部分があると思います。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

池田達也：就任前から経済に積極的という印象でした。食料品消費税ゼロの公約は店長として「どう対応するんだ」と思いながら見ていましたが、1%案になって現実的な方向に來たと思います。今日の理由を聞いて、現場を考えた判断だとわかりました。

M：スーパー店長というお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

池田達也：食料品消費税の話は現場をわかって決めてもらいたいです。1%案の理由がレジシステムの問題と聞いて、現場を見ている政策だと思いました。あとは物価対策も合わせて考えてほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

池田達也：方向性は良いと思います。今日の理由を聞いて、現場の制約を考慮した判断だとわかりました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

池田達也：「食料品の1%案、レジシステムの問題はよくわかります。早く確定してください。現場の準備にも時間がかかるので、確定してもらわないと動けないんです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

池田達也：現場として準備期間が必要なので、早く確定してほしいんです。家庭としても食費が早く下がってほしいですし。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

池田達也：します。妻も同じ店で働いているので、レジの話はよくわかります。「早く決まってほしいね」とよく言っています。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

池田達也：「スーパー店長として1%案の理由は一番よくわかる、現場にも家庭にも早く確定してほしい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

池田達也：レジシステムの改修は本当に大変なことを知っているので、1%で半年早く確定してもらえれば、現場の準備も家庭の食費節約も早く始まります。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

池田達也：今日の話で1%案の技術的な根拠がわかって良かったです。現場で対応する立場として、政策の理由がわかると動きやすいです。早く確定してほしいです。

M：ありがとうございました。

No.91 「保育料もかかる共働きの今の時期に、ゼロより 1%で半年早く食費が下がる方がいい——4 歳児の母・36 歳」

対象者プロフィール

氏名	澤田 恵子
居住地	千葉県市川市
年齢・性別	36 歳・女性
職業	会社員（正職員・人材派遣）
家族構成	夫（会社員）・子 1 人（4 歳）
政治関心/知識	中／中

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「4 歳の子どもがいる今の時期に早く始まってほしいので、1%で半年早く始まる方が助かります」と述べた。「保育料もかかっているので、食費が少し下がれば家計が楽になります」と語った。

推論：4 歳の子どもと保育料という今の支出の重なりが「今の時期に早く」という動機の根拠になっている。共働きで収入は安定しているが、保育料と食費が重なる時期という家計の実感が消費税節約への動機を形成している。

FD：澤田にとって消費税 1%案への賛成は、共働きで保育料と食費が重なる 4 歳児の子育て時期に、少しでも家計の余裕を作りたいという動機から来ている。「保育料もかかっているので」という言葉に、収入が安定しながらも支出が重なる今の時期の家計感覚が出ている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「月 7～8 万円の食費で、1%になれば年間 5～6 万円くらい違う。保育料が月 4～5 万円かかっているので、食費が少し下がれば助かります」と述べた。「共働きで収入はある方ですが、保育料と食費が重なっている時期なので」と続けた。

推論：「共働きで収入はある方ですが」という言葉に、収入水準を自覚しながらも保育料と食費の重なりが今の家計の実感として語られていることが示されている。消費税節約を「絶対的な切実さ」ではなく「あれば助かる」として位置づけている。

FD：澤田における消費税は「収入は安定しているが保育料と食費が重なる今の時期の、助かる家計の余裕」として位置づけられる。節約の切実さは他の対象者より穏やかだが、「保育料と食費が重なっている」という現実から来る動機は明確だ。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「保育所の環境とか、子どもが小学校に上がってからの学童保育の費用とか。食費の消費税が下がるのはありがたいですが、子育てしながら働くための支援も充実してほしい」と述べた。

推論：高市総理への評価は食料品消費税の方向性への受け入れだが、共働きで子育てしながら働く母親としての子育て支援全体への要求が並走している。消費税節約が「子育て支援全体」という要求の一部として語られている。

FD：澤田の高市評価は「食費が下がるのはありがたい、子育てしながら働くための支援も充実してほしい」という共働き母親としての複合的な要求だ。消費税節約が、より大きな子育て支援課題の中の一つとして位置づけられている。

【全体総括】

根拠：「保育料もかかる共働きの今の時期に、ゼロより 1%で半年早く食費が下がる方がいい」と締めた。「4 歳の子どもがいて保育料もかかっています」という言葉が動機の背景を示している。

推論：澤田を貫く行動原理は「共働きで収入は安定しているが 4 歳の保育料と食費が重なる今の時期に、節約の切実さは穏やかながらもゼロより半年早い 1%を選ぶ」だ。収入水準に自覚を持ちながらも「保育料と食費が重なっている」という実感が動機を形成している。

FD：澤田恵子の特徴づけるのは「共働きで収入はある方と自覚しながら、4 歳の保育料月 4～5 万円と食費月 7～8 万円が重なる今の時期に、「助かる」という穏やかな動機でゼロより半年早い 1%を選んだ 36 歳」だ。「共働きで収入はある方ですが」という言葉に、収入水準への自覚と支出の重なりへの実感が共存した判断が出ている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

澤田恵子：人材派遣の会社で正職員として働いています。夫と 4 歳の子どもがいます。市川市に住んでいます。共働きで保育園に預けていますが、保育料と食費が重なって出費が多い時期です。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

澤田恵子：知っています。高市総理が食料品消費税をゼロにするとっていて、最近では 1%案が出ているという話ですね。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

澤田恵子：食費は月 7～8 万円くらいかかっています。4 歳の子どもがいて食費も前より増えています。物価も上がっているのも、同じものが高くなっているのを感じます。消費税が下がれば助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

澤田恵子：良いと思います。家計として助かります。8%から 1%になれば月 5,000 円くらい変わります。保育料もかかっているのも、食費が少し下がれば家計が楽になります。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

澤田恵子：覚えています。ゼロになったら良かったなと思います。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

澤田恵子：少し残念でしたが、驚かなかったです。何か理由があるんだろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

澤田恵子：評価します。8%よりずっといいです。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

澤田恵子：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

澤田恵子：そういう理由なんですね。確かに全国のスーパーのレジを変えるのは大変そうです。4 歳の子どもがいる今の時期に早く始まってほしいので、1%で半年早く始まる方が助かります。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

澤田恵子：そうですね。早い方が嬉しいです。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

澤田恵子：早く確定してほしいです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

澤田恵子：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。レシートで確認できるので。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

澤田恵子：月 7～8 万円かかっています。1%になれば年間で 5～6 万円くらい違いますよね。保育料が月 4～5 万円かかっているの、食費が少し下がれば助かります。

M：その情報はどこから？

澤田恵子：ニュースで見ました。夫とも話しています。

M：何か実感として感じているものはありますか？

澤田恵子：物価が上がっているのは感じています。スーパーで同じものが前より高くなっているのがわかります。子どもが 4 歳になって食べる量が増えてきているので、食費全体が増えている感じがします。

M：それについてはどう思いますか？

澤田恵子：消費税が少しでも下がれば助かります。共働きで収入はある方ですが、保育料と食費が重なっている時期なので。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

澤田恵子：就任してから「女性の総理が生まれた」という印象でした。食料品の消費税の話は家計として助かります。

M：4 歳のお子さんを育てながら正職員として働いている母親という立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

澤田恵子：子育て支援がどうなるかは気になります。保育所の環境とか、子どもが小学校に上がってからの学童保育の費用とか。食費の消費税が下がるのはありがたいですが、子育てしながら働くための支援も充実してほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

澤田恵子：方向性は良いと思います。今日の話でシステムの問題だとわかって、1%案の理由が理解できました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

澤田恵子：「食費が少し下がれば助かります。1%でも早く始めてください。子育て支援も合わせて充実させてほしいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

澤田恵子：共働きで仕事と子育てを両立させています。食費が少しでも下がれば助かりますし、子育て支援が充実すれば働きやすくなります。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

澤田恵子：します。夫も「食費が下がれば助かる」と言っています。家計のことはよく二人で話します。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

澤田恵子：「保育料もかかる共働きの今の時期に、ゼロより 1%で半年早く食費が下がる方がいい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

澤田恵子：4 歳の子どもがいて保育料もかかっています。システムの問題で半年早く始まるなら、1%の方が今の生活には良いです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

澤田恵子：今日の話でシステムの問題だとわかって良かったです。早く確定してほしいです。

M：ありがとうございました。

No.92 「食品売り場でシール貼り替えを知るから 1%案のレジ事情はわかる、早く始めてほしい」——子ども二人を育てる 42 歳百貨店パート

対象者プロフィール

氏名	矢野 涼子
居住地	千葉県船橋市
年齢・性別	42 歳・女性
職業	パート（百貨店・食品売り場）
家族構成	夫（会社員）・子 2 人（13 歳・10 歳）
政治関心/知識	低/低

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「百貨店の食品売り場で働いているので、値段のシール貼り替えや表示変更の大変さは知っています」と述べ、レジシステム説明に共感。「1%で半年早く始まるなら早い方が良いです。お客さんが少し安く買い物できるようになるといいな」と現場目線から応じた。

推論：百貨店食品売り場でのシール貼り替え・表示変更の実務経験がレジシステムへの共感の具体的な根拠になっている。「お客さんが少し安く買い物できるようになるといいな」という言葉に、自分の家計への切実さより「現場で接しているお客さんへの思い」が先に出てくる職場環境が反映されている。

FD：矢野にとって消費税 1%案への賛成は、百貨店食品売り場でのシール貼り替え経験からレジシステム理由に共感し、「お客さんのため」という現場目線と「子ども二人の家計のため」という生活者目線の両方から歓迎している。職場での日常が賛成の文脈を豊かにしている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「食費は月 7～8 万円くらいかかっています。子どもが 13 歳と 10 歳で食べ盛りなので」と述べた。「消費税が 1%下がれば年間で数千円の節約になりますし、子どもの習い事代に回せます」と応じた。

推論：子ども 2 人・夫婦共働き・世帯年収 520 万円という家計状況から、食費節約への動機は穏やかだが具体的だ。子どもが「食べ盛り」という表現に、食費への実感がある。百貨店パートという収入水準から、わずかな節約でも子どもの習い事費用への転用という具体的な使い道が描けている。

FD：矢野における消費税は「食べ盛りの子ども二人を育てる家計の現実」と「百貨店食品売り場での職場経験」が重なって、政策への評価を身近に感じさせる。節約した分を「子どもの習い事代に回せる」という具体的な使い道が動機の実体だ。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品が少し安くなれば、うちもお客さんも助かります。早く決まれば良いと思います」と述べた。

推論：高市総理への評価は「食料品消費税が下がること自体への歓迎」として穏やかに出てくる。政治への関心が低く、消費税以外の政策への言及はほとんどない。現場でお客さんと接しているため、「うちもお客さんも助かる」という言葉が自然に出る。

FD：矢野の高市評価は「食料品が安くなれば自分もお客さんも助かる、早く決まれば良い」というシンプルで温かい支持だ。政治への関心の薄さが、評価を穏やかで現場目線のものにしている。

【全体総括】

根拠：「食品売り場でシール貼り替えを知るから 1%案のレジ事情はわかる、早く始めてほしい」と締めた。「お客さんが少し安く買い物できるようになるといいな」という言葉が現場目線を体現していた。

推論：矢野を貫く行動原理は「百貨店食品売り場でシール貼り替えや表示変更の大変さを知っており、レジシステム説明に身近な共感を持ち、食べ盛りの子ども二人の家計として食費節約を歓迎しながら、お客さんへの思いも持ち続ける」だ。自分の節約と他者への思いが並走している。

FD：矢野涼子の特徴づけるのは「百貨店食品売り場でシール貼り替えや表示変更の大変さを身近に知り、食べ盛りの子ども二人の家計として食費節約を歓迎しながら、『お客さんが少し安く買い物できるようになるといいな』と現場目線で賛成する 42 歳」だ。「お客さんが少し安く買い物できるようになるといいな」という言葉に、自分の家計節約より他者への思いが先に出てくる温かい視点が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話いただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

矢野涼子：百貨店の食品売り場でパートをしています。夫が会社員で、子どもが 13 歳と 10 歳います。船橋に住んでいます。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

矢野涼子：なんとなく聞いています。食べ物の税金が変わるとかいう話ですよ。

M：知っていることを教えてください。

矢野涼子：高市総理が食べ物の税金をゼロにするって言っていたような……最近では1%という話も聞きました。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

矢野涼子：子どもが二人いて食べ盛りなので、月7～8万円くらいかかっています。消費税が下がれば助かります。

M：食料品消費税を1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

矢野涼子：良いと思います。少しでも下がれば助かりますし、お客さんも喜ぶと思います。

M：なぜそう思いますか？

矢野涼子：子どもが二人いて食費がかかりますし、節約できれば子どもの習い事代に回せます。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

矢野涼子：そういえばそんな話があったような気がします。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

矢野涼子：特に驚かないですね。ゼロというのは難しいんだろうなと思っていました。

M：1%になったとしたら評価しますか？

矢野涼子：評価します。

M：0にできない理由について知りたいですか？

矢野涼子：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約1年かかるためです。0%だと1年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

矢野涼子：ああ、レジのシステムの問題なんですね。百貨店の食品売り場で働いているので、値段のシール貼り替えや表示変更の大変さは知っています。全国のスーパーを一斉に変えとなれば大変ですよ。1%で半年早く始まるなら早い方が良いです。お客さんが少し安く買い物できるようになるといいな、と思います。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

矢野涼子：そうですね。早く始まる方がいいと思います。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

矢野涼子：早く決まれば良いですね。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

矢野涼子：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。職場でも商品の価格には関係するので。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

矢野涼子：食費は月 7～8 万円くらいかかっています。消費税が 1%下がれば年間で数千円の節約になりますし、子どもの習い事代に回せます。

M：その情報はどこから？

矢野涼子：自分で計算しました。家計管理をしているので、だいたいの感覚はあります。

M：何か実感として感じているものはありますか？

矢野涼子：物価が上がっているのは感じています。仕事でも商品の値段が上がっているのがわかります。お客さんからも「高くなったね」と言われることがあります。

M：それについてはどう思いますか？

矢野涼子：消費税が少しでも下がれば助かります。お客さんも少し安く買えるようになれば良いと思います。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

矢野涼子：あまり政治は見えていないので印象があまりないですが、食料品の税金が下がるという話は良いと思いました。

M：百貨店食品売り場というお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

矢野涼子：食料品が少し安くなれば、うちもお客さんも助かります。物価対策をしっかりやってほしいというのが一番の要望です。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

矢野涼子：良い方向だと思います。今日の話でレジのシステムの問題とわかって、理由がわかって良かったです。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

矢野涼子：「食料品の 1%案、早く始めてください。子どもが二人いて食費がかかるので、少し安くなれば助かります。お客さんも喜ぶと思います」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

矢野涼子：子どもの食費が大変なので食費が下がれば助かりますし、食品売り場で働いているのでお客さんにも早く届けてほしいという気持ちがあります。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

矢野涼子：します。夫は「食費が下がれば助かるね」と言っていました。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

矢野涼子：「食品売り場でシール貼り替えを知るから 1%案のレジ事情はわかる、早く始めてほしい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

矢野涼子：食品売り場で働いているので、値段の表示変更の大変さはわかります。1%で半年早く始まるなら良いと思います。お客さんも少し安く買えるようになれば良いですし。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

矢野涼子：今日の話で 1%案の理由がわかって良かったです。早く決まれば良いと思います。

M：ありがとうございました。

No.93 「外食中心の生活でも 1%案は歓迎、スーパーの食費が少し安くなれば将来の子育てに備えられる」――メーカー勤務の 30 歳

対象者プロフィール

氏名	中田 陽子
居住地	千葉県松戸市
年齢・性別	30 歳・女性
職業	会社員（正職員・メーカー）
家族構成	夫（会社員）・子なし
政治関心/知識	低／中

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「外食やデリバリーが多くてスーパーはあまり使わないので、直接の影響は少ないかもしれませんが、将来子どもができれば食費も増えるので良いことだと思います」と述べた。レジシステム説明に対し「メーカーでもシステムの改修はいつも時間がかかるので、理由はよくわかります。1%で半年早く始まるなら現実的な判断だと思います」と応じた。

推論：外食・デリバリー中心のライフスタイルから現在の食料品購入は少なく、消費税削減の恩恵は「将来の子育て設計」という形で先送りされている。メーカー社員としてのシステム改修経験がレジシステム理由への理解を深めている。

FD：中田にとって消費税 1%案への賛成は、現在の外食中心ライフスタイルからは切実さが薄いですが、将来の子育て設計として食費節約を先取りして評価し、メーカーでのシステム改修経験から技術的理由にも共感するという「将来への備え型」の賛成だ。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「今は外食やデリバリーが多いので食料品はそんなに買わないですが、将来子どもができれば食費はかなり増えると思います。今から下がってれば備えになります」と述べた。

推論：現在は子なし共働きで世帯年収 880 万円という経済的に余裕のある状況から、消費税削減の切実さは低い。しかし将来の子育て設計として「今から下がってれば備えになる」という先見的な動機形成がされている。「備え」という言葉に、現在より将来を見据えた価値観が表れている。

FD：中田における消費税は「現在より将来の子育て準備としての節約手段」として位置づけられている。外食中心のライフスタイルで現在の影響が薄い分、評価の軸が将来の子育てという時間軸に移っている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「方向性は良いと思います。将来のことも考えると、食料品が少し安くなれば助かります。早く確定してほしいです」と述べた。

推論：高市総理への評価は「将来の子育て」という個人的な文脈から出ており、現在の生活への直接的な影響より将来設計への言及が中心だ。政治への関心が低く、消費税以外の政策への言及は薄い。

FD：中田の高市評価は「将来の子育てのためにも食料品が少し安くなれば、早く確定してほしい」という穏やかで将来向きの支持だ。現在の生活への切実さより将来への備えという評価の軸が評価全体を穏やかにしている。

【全体総括】

根拠：「外食中心の生活でも 1%案は歓迎、スーパーの食費が少し安くなれば将来の子育てに備えられる」と締めた。「メーカーでもシステムの改修はいつも時間がかかるので、理由はよくわかります」と述べた。

推論：中田を貫く行動原理は「外食中心ライフスタイルで現在の恩恵は薄いが、将来の子育て設計として食費節約を先取りして評価し、メーカーでのシステム経験から技術的理由にも共感する」だ。将来への備えという価値観が評価の核心にある。

FD：中田陽子の特徴づけるのは「外食デリバリー中心のライフスタイルで現在の食料品購入は少なく、消費税削減の直接の恩恵は薄い、将来の子育てへの備えとして 1%案を先取り評価し、メーカーでのシステム改修経験からレジシステム理由にも共感する 30 歳」だ。「今から下がっていけば備えになります」という言葉に、現在より将来を見据えた評価の軸が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

中田陽子：メーカーで働いています。夫も会社員で共働きです。子どもはまだいないです。松戸に住んでいます。外食やデリバリーが多くて、スーパーはあまり行かないんですよね。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

中田陽子：なんとなく知っています。高市総理がゼロにするって言っていたのも、1%案になっているのも聞いたことがあります。

M：知っていることを教えてください。

中田陽子：ゼロという公約があって、現実的に 1%案になってきているという感じですかね。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

中田陽子：外食やデリバリーが多くてスーパーはあまり使わないので、食料品への直接の影響はそんなに大きくないかもしれないです。でも将来子どもができれば食費も増えるので、良いことだと思います。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

中田陽子：良いと思います。今は外食が多いので直接の恩恵は少ないですが、将来のためには食費が下がるのは良いことです。

M：なぜそう思いますか？

中田陽子：将来子どもができれば食費はかなり増えると思うので、今から食料品が安くなれば将来の備えになります。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

中田陽子：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

中田陽子：驚かないですね。ゼロというのは難しそうだと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

中田陽子：評価します。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

中田陽子：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

中田陽子：ああ、システムの問題なんですね。メーカーでもシステムの改修はいつも時間がかかるので、理由はよくわかります。全国のスーパーが一斉になれば確かに大変ですね。1%で半年早く始まるなら現実的な判断だと思います。将来のことを考えると、早く始まった方がいいですし。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

中田陽子：そうですね。早く始まる方が良いと思います。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

中田陽子：早く決めてほしいですね。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

中田陽子：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。消費税の仕組みは大体わかります。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

中田陽子：今は外食やデリバリーが多いので食料品はそんなに買わないですが、将来子どもができれば食費はかなり増えると思います。今から下がってれば備えになります。消費税が 1%下がれば年間で数千円の節約になりますし。

M：その情報はどこから？

中田陽子：自分で計算しています。ニュースも追っています。

M：何か実感として感じているものはありますか？

中田陽子：物価が上がっているのは感じています。外食の値段も上がっていますし、たまにスーパーに行くと前より高くなっているのがわかります。

M：それについてはどう思いますか？

中田陽子：消費税が少しでも下がれば助かります。外食も食料品も全体的に高くなっているのです。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

中田陽子：就任前はあまり知らなかったですが、食料品消費税の話で庶民の生活を考えてくれているんだなと思いました。1%案になったのは残念ですが、理由があれば納得です。

M：メーカー勤務というお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

中田陽子：消費税の話が一番気になります。メーカーとして物価や消費の動向は関係するので。あとは将来の子育て支援が気になります。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

中田陽子：方向性は良いと思います。今日の話で理由もわかりましたし、1%案は現実的な判断だと思います。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

中田陽子：「食料品の 1%案、早く確定してください。将来の子育てのことも考えると、食費が少し安くなれば助かります」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

中田陽子：将来子どもができた時のことを考えると、食費が少し安くなれば助かりますし、早く確定してほしいからです。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

中田陽子：します。夫は「食費が下がれば将来助かるね」と言っていました。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

中田陽子：「外食中心の生活でも 1%案は歓迎、スーパーの食費が少し安くなれば将来の子育てに備えられる」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

中田陽子：メーカーでのシステム改修経験からレジシステムの大変さはわかります。1%で半年早く始まるなら良いですし、将来のことを考えると今から食費が下がっていれば備えになります。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

中田陽子：今日の話で 1%案の理由がわかって良かったです。将来の子育てのためにも、早く確定してほしいです。

M：ありがとうございました。

No.94 「喜ぶと損する」――政治を信じたいのに信じきれない、3人の子を持つ専業主婦の消費税観

対象者プロフィール

氏名	石田 文子
居住地	千葉市（千葉県）
年齢	47 歳・女性
職業	専業主婦
世帯年収	約 540 万
家族構成	夫（会社員）・子 3 人（18 歳・15 歳・12 歳）

3 分ブリーフィング

【Part 1】根拠：「下げるとかゼロにするとか聞いた気がする」と曖昧な認知から始まり、「選挙が終わったら聞かなくなった」と述べた。1%案に「ありがたい」と答えたが、「1%が嬉しいのか下がること自体が嬉しいのか」の確認に対し「下がること自体、いくらでもありがたい」と明確化した。公約（ゼロ）については半信半疑だったと認め、システム理由を聞いて「仕方ない、半年早い方が助かる」と軟化。「まだ決まってない」と聞いて「なくなる可能性があるのか、それは困る」と不安を示した。／推論：賛否の軸は「実現するかどうか」への不信感にある。期待値を最初から低く設定することで傷つくことを避けている。／FD：政策への期待と不信が共存する。「実現した事実」があれば評価に転じる層。

【Part 2】根拠：「怖くて計算できない」「知らない方が楽だからあえて見ないようにしている」と述べた。10%への増税を機に「もう見たくない」という諦めが生まれたと語った。「どうせ変わらない」「選挙に行っても一票で何も変わらない」という無力感を自覚しており、夫も同じ空気を持っていると述べた。／推論：消費税への不信は単なる不満ではなく、「知ることへの回避」という認知的防衛機制として現れている。無力感は家庭内で強化されており、固定化されつつある。／FD：「知らない方が楽」という回避行動が習慣化している。しかし今日の対話で「本当はわかった方がいい」という自覚も同時に存在することが明らかになった。

【Part 3】根拠：高市総理への就任前の認知は低く、就任後「ゼロにする人」というイメージがついた。「期待して裏切られるのが怖い」と述べ、子ども手当・給付金での経験から「喜ぶと損する」という感覚が形成されたと語った。メッセージは「約束したことを守ってほしい」。「子どもたちに政治は信じていいものだと思わせたい」という言葉で締めた。夫とはこの話を深くしたことがない。／推論：政治への評価軸は「約束を守るかどうか」であり、これは繰り返し裏切られた経験から来る防衛的な基準設定である。高市総理への評価は現時点では保留だが、実現という事実があれば動く。／FD：「喜ぶと損する」は、この人物の政治との関わり方を象徴するキーワード。説明と実現の積み重ねによって信頼が回復する可能性がある。

【全体総括】根拠：「信じたいけど信じきれない」「喜ぶと損する」「知らない方が楽」という言葉が核心。今日の対話を通じて「少し変わった気がする」「子どもに政治は大事だと言える親でいたい」と述べた。／推論：この人物の核心は「諦めと信頼希求の間で揺れる生活者」である。政治への距離は無関心ではなく、傷つくことへの自衛である。今日の対話が「説明があれば信じられる」という気づきを生んだ。／FD：「実現という事実」と「理由の説明」の両方が揃ったとき、評価と信頼が動く可能性がある。現時点では最も動かしやすい層の一人。

発言録

【導入】

M：石田さん、今日はお時間いただきありがとうございます。正解・不正解はありませんので、日頃感じていることをそのままお話しください。最近の生活で気になっていることや、関心があることは何かありますか？

石田文子：「そうですね.....子どもが3人いるので、毎日の食費が本当にかかって。上の子が受験を控えていて塾代もかかるし、食費を削りたいけど育ち盛りだから削れなくて。スーパーに行くたびに「また高くなった」って思います。あとは夫の給料もそんなに上がらないので、毎月やりくりするのが大変で。政治とかニュースは気になるけど、追う時間がなかなかなくて。」

【Part 1】食料品消費税の議論への賛否と理由

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？知っていることを教えてください。

石田文子：「なんか、下げるとかゼロにするとか.....聞いた気はします。ニュースでちらっと見たような。でも詳しくは追えてないです。」

M：どんなことを聞いた気がしますか？覚えていること、なんでも教えてください。

石田文子：「えーっと.....高市さんが言ってたんですかね。食料品の消費税をゼロにするって。選挙の時だったかな。スーパーの消費税がなくなるって話で、「本当にそうならいいな」って思って見てた気がします。でもその後どうなったかは、ちゃんと追えてなくて。実現したのかどうかも正直わからないです。」

M：今はどうなっていると思いますか？

石田文子：「どうなってるんですかね.....。ゼロになってたら気づくと思うんですが、レシートを見てもそんな感じはしないので、まだ変わってないのかなって。選挙が終わったら聞かなくなった気がして、結局どうなったんだろうと思ってます。」

M：食料品消費税を1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

石田文子：「1%に.....それは正直ありがたいです。毎月食費が6〜7万円くらいかかっているの、少しでも下がれば助かります。1%でも下がるなら嬉しいです。」

M:「嬉しい」というのは、1%という数字に対してですか？それとも、今より下がること自体が嬉しいということですか？

石田文子:「下がること自体ですね。1%じゃなくてゼロでも、3%でも、とにかく今より安くなれば。1%でも何もないよりはましというか。正直 1%という数字にこだわりはなくて、下がるならいくらでもありがたいという感じです。」

M:なぜそう思いますか？

石田文子:「毎日スーパーに行って、少しでも安いものを探しているんです。同じ野菜でも 10 円安いお店に行くくらい。子どもが 3 人いて育ち盛りで、食費は削りたくても削れない。消費税が下がれば、その分で何か一品増やせるかなって。子どもたちにもう少し好きなものを食べさせてあげたいとも思っているの。」

M:ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

石田文子:「さっき言ったやつですよ。高市さんがゼロにするって。覚えてます、なんとなく。」

M:それが今、1%になりそうという話になっています。それを聞いてどう思いますか？

石田文子:「ゼロの方がよかったけど.....「やっぱりそうなるか」という感じもあって。ゼロって言われた時も半信半疑だったの。1%でも実現するなら、それはそれでありがたいです。」

M:なぜ半信半疑だったんですか？

石田文子:「政治家の人って、選挙の時にいいことを言うけどなかなか実現しないイメージがあって。最初から期待しすぎない方が傷つかないというか。」

M:では 1%になったとしたら評価しますか？

石田文子:「します。ゼロじゃなくても、下げてくれたなら評価したいです。何もしないより全然いい。ただ、実現してほしいです。言うだけで終わったらがっかりするので。」

M:なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

石田文子:「わからないです。なんか理由があるんですか？」

M:実は、スーパーなどのレジシステムをゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

石田文子:「そういう理由があったんですね。知らなかった。それを聞いたら「じゃあ仕方ないかな」って思います。ゼロにしたいくてもできない事情があるなら、1%でも半年早く実現してくれる方がいい。毎日の買い物のことを考えると、早い方が助かります。」

M:半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

石田文子：「そうですね。1年も待つより半年で下がってくれる方が、全然いいです。」

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

石田文子：「まだ決まってないんですか.....。早く決めてほしいです。検討中ってことは、なくなる可能性もあるんですか？それは困ります。毎日の生活に関わることなので、早く決めて実現してほしいです。」

【Part 2】消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税について、日頃どのような知識や情報をお持ちですか？また、どのようにお考えですか？自由にお話してください。

石田文子：「食料品は8%で、それ以外は10%ですよ。スーパーのレシートで見るのでわかるんですけど。でも「なんのために取られてるのか」って言われると、社会保障って聞いているけど実感がなくて。上がるたびに生活が苦しくなった気はするけど、何かが良くなった感じはしなくて。」

M：上がるたびに生活が苦しくなった」というのは、具体的にどんな場面で感じましたか？

石田文子：「10%になった時ですね。レジでの金額が明らかに増えて。同じものを買っているのに「なんでこんなに高いんだろう」って。特に子どもが3人いるから量を買うので、ちょっとした差が積み重なって.....。その頃から、特売のチラシをもっとちゃんと見るようになった気がします。」

M：その情報はどこから？

石田文子：「テレビとか、ママ友との話とかですね。「また高くなったね」って話はよくします。消費税のせいなのか物価のせいなのかわからないけど、「全体的に高い」という感覚で話します。」

M：何か実感として感じているものはありますか？

石田文子：「毎月の食費を計算するんですけど、消費税がいくらなのかは正直ちゃんと見てないですね。なんか.....怖くて計算できないというか。」

M：怖くて、というのはどういう気持ちですか？

石田文子：「計算したら「こんなに払ってたのか」ってなりそうで。知ってしまったら余計に嫌になりそうで。でも.....本当はわかった方がいいんでしょうね。知らないままにいる方が楽だから、あえて見ないようにしてる部分があるかもしれないです。」

M：あえて見ないようにしている、というのはいつ頃からですか？

石田文子：「10%になってからですかね。それまでは気にしてなかったけど、10%になった時に「もう見たくない」ってなった気がします。上がると知るたびにしんどくなるから、なんか.....諦めみたいな気持ちが出てきて。」

M：諦め、というのはどんな感覚ですか？

石田文子：「どうせ私が何か言っても変わらないし、上がるものは上がるし.....という感じ。選挙には行くんですけど、自分の一票で何か変わると思えなくて。なんかそういう無力感みたいなものがずっとあります。夫も「文句言っても仕方ない」ってよく言うので、家の中でもそういう空気になってて。」

【Part 3】高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

石田文子：「就任したのは知ってます。女性初の総理大臣って話題になってたので。就任前は名前は知ってるくらいで、どんな人かはよくわからなかったです。就任してからは、消費税をゼロにするって言ってた人というイメージがついて。テレビで見る機会も増えたけど.....印象が大きく変わったというほどではないです。」

M：その感覚はどこから来ていると思いますか？

石田文子：「なんでしょう.....。総理大臣が変わっても生活がすぐ変わるわけじゃないから、「また変わったんだな」くらいの感覚で。女性の総理って話題になったけど、だからといって子育て家庭が楽になるのかというと、まだわからないし。期待したいけど、期待して裏切られるのが怖くて、最初から距離を置いてる感じがします。」

M：期待して裏切られるのが怖い」というのは、これまでにそういう経験がありましたか？

石田文子：「ありますよ。子ども手当とかも、増えると聞いて喜んだら条件があったり、すぐ制度が変わったり。給付金も「もらえる」と思ったら対象外だったり。そういうことが重なって、「喜ぶと損する」みたいな感覚になってきてるかもしれないです。」

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

石田文子：「ゼロにするって最初に聞いた時は「本当にやってくれるのかな」って少し期待しました。でも今日話してみて、1%になりそうとか、まだ決まってないとか聞いて.....やっぱりそう簡単にはいかないんだなって。ただ、システムの理由を聞いて「事情があるならわかる」とは思いました。最初からそれを言ってくれば、もやもやしなかったんですけど。」

M：今の高市総理に一言メッセージを送るとしたら、何と言いますか？

石田文子：「「約束したことは守ってほしい」ですかね。ゼロって言ったことが1%になるのは仕方ないとしても.....言ったことが実現しないことが続くと、信じられなくなってしまうので。私みたいに毎日やりくりしてる家庭のことを、数字だけじゃなくてちゃんと見てほしいです。」

M：なぜそう言いたいのか、理由を教えてください。

石田文子：「「喜ぶと損する」みたいな気持ちが、いつの間にかできあがってしまってるんです。でも本当はそうじゃなくて、信じてちゃんと応えてもらえる、という関係でいたいんですよね。子どもたちにも、政治って信じていいものなんだよって思わせてあげたいし。」

【締め】

M：旦那さんとういう話をすることはありますか？

石田文子：「あまりないですね。夫は「文句言っても仕方ない」って人なので、政治の話をしてもうすぐそこで終わってしまっ。て。「また上がったね」くらいの話はするけど、深くは話さないです。今日みたいに消費税の理由まで考えたのは初めてかもしれないです。」

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

石田文子：「「信じたいけど、信じきれない」ですかね。消費税が下がると聞いて期待したいけど、また「喜ぶと損する」になりそうで。でも今日話して、ちゃんと理由があると知ったら少し前向きになれた気もして。だから、説明してくれれば信じられると思うんですよ。」

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

石田文子：「子どもたちに「政治って大事だよ」って言える親でいたいなと思いました。でも自分が「どうせ変わらない」って思ってたなら説得力ないですよ。今日話して、少しだけ変わった気がします。」

No.95 「インボイスで消費税の大変さを知っているから 1%案は納得、フリーランスの収入が不安定だから食費節約は切実」――38 歳フリーランス翻訳

対象者プロフィール

氏名	浅田 香純
居住地	千葉県柏市
年齢・性別	38 歳・女性
職業	フリーランス（翻訳）
家族構成	夫（IT）・子 1 人（5 歳）
政治関心/知識	高／中

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「インボイス制度が始まった時は本当に大変でした。消費税の制度変更が現場にどれだけ負担をかけるかはよく知っています」と述べ、レジシステム説明に共感した。「フリーランスの収入は不安定なので食費が少しでも下がれば助かります。1%で半年早く始まるなら早い方がいいです」と応じた。

推論：インボイス制度導入で事務負担が増加した経験から「消費税の制度変更は現場に大きな負担をかける」という実感があり、レジシステム改修への共感がそこから来ている。フリーランスの収入不安定さが食費節約への切実な動機を生んでいる。

FD：浅田にとって消費税 1%案への賛成は、インボイス制度で消費税の制度変更の大変さを直接経験しており、レジシステム理由を「現場への負担」として共感し、フリーランスの収入不安定さから食費節約を切実に求めている。インボイス経験が政策への理解と共感の深さを他の回答者と異なるものになっている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「インボイス制度で消費税の仕組みを詳しく勉強しました。フリーランスとして消費税をどう扱うか、申告の仕方から税率の影響まで把握しています」と述べた。「収入が月によって変わるので、食費を把握して管理しています。消費税が下がれば確実に助かります」と応じた。

推論：インボイス対応のために消費税を深く学んだ経験が、食料品消費税への知識と関心の根拠になっている。フリーランスの収入変動という生活の不安定さが「確実に助かる」という言葉の確信度を高めている。食費を「把握して管理している」という記述に、家計管理の必要性から生まれた感覚がある。

FD：浅田における消費税は「インボイス対応で制度を深く学んだ知識」と「フリーランスの収入不安定という生活の現実」が重なって、食費節約への切実な動機として出てくる。軽い節約ではなく「確実に助かる」という確信度が特徴的だ。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「フリーランスへの支援も合わせて考えてほしいです。インボイス制度で負担が増えたので、フリーランスの収入が安定しやすい環境を作ってほしいです」と述べた。

推論：食料品消費税への賛成と並行して、フリーランスの立場からの政策要求が出てくる。インボイス制度への不満が「フリーランスへの支援」という要求として高市評価に接続されている。消費税削減への賛成も、フリーランスの収入不安定という構造的な問題の文脈に置かれている。

FD：浅田の高市評価は「1%案は早く始めてほしい、フリーランスへの支援もセットで」という並列要求だ。食料品消費税への賛成がフリーランスの生活の苦しさという最大の文脈の一部として位置づけられており、消費税単独では評価が完結しない。

【全体総括】

根拠：「インボイスで消費税の大変さを知っているから 1%案は納得、フリーランスの収入が不安定だから食費節約は切実」と締めた。「インボイス制度が始まった時は本当に大変でした」という言葉に、制度変更への当事者的な理解が凝縮されている。

推論：浅田を貫く行動原理は「インボイス制度で消費税の制度変更の大変さを身をもって知り、レジシステム理由を当事者として共感しながら、フリーランスの収入不安定さから食費節約を切実に求める」だ。インボイス経験が評価の文脈を他の回答者と大きく異なるものにしている。

FD：浅田香純を特徴づけるのは「インボイス制度導入で消費税の制度変更が現場に大きな負担をかけることを身をもって経験し、レジシステム改修への共感が深く、フリーランスの収入不安定さから食費節約を切実に求める 38 歳」だ。「インボイス制度が始まった時は本当に大変でした」という言葉に、消費税の制度変更の当事者としての実感が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただけで大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

浅田香純：フリーランスで翻訳の仕事をしています。夫が IT 関係の会社員で、5 歳の子どもがいます。柏に住んでいます。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

浅田香純：知っています。高市総理の食料品消費税ゼロの公約も、最近の 1%案も把握しています。フリーランスとして税金の話は敏感なので。

M：知っていることを教えてください。

浅田香純：ゼロという大きな公約があって、現実的に 1%案になってきているという流れですね。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

浅田香純：フリーランスで収入が不安定なので、食費も把握して管理しています。月 5～6 万円くらいです。消費税が下がれば確実に助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

浅田香純：良いと思います。ゼロが良かったですが、1%でも下がれば助かります。フリーランスの収入は不安定なので、食費が少しでも下がれば家計が楽になります。

M：なぜそう思いますか？

浅田香純：フリーランスの収入は月によって変わるので、食費が安定して下がっていれば助かります。5 歳の子どもがいて食費はこれからも増えますし。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

浅田香純：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

浅田香純：「やっぱりそうなるか」という感じです。ゼロにするには何か大きな壁があるだろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

浅田香純：評価します。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

浅田香純：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

浅田香純：ああ、レジのシステムの問題なんですね。インボイス制度が始まった時は本当に大変でした。消費税の制度変更が現場にどれだけ負担をかけるかはよく知っています。全国のスーパーが一斉に対応するとなれば大変ですよ。1%で半年早く始まるなら早い方が良いです。フリーランスの収入は不安定なので食費が少しでも下がれば助かります。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

浅田香純：そうですね。早く始まる方が助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

浅田香純：早く決めてほしいです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

浅田香純：インボイス制度で消費税の仕組みを詳しく勉強しました。フリーランスとして消費税をどう扱うか、申告の仕方から税率の影響まで把握しています。食料品が8%で他が10%というのも当然知っています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

浅田香純：収入が月によって変わるので、食費を把握して管理しています。月5〜6万円くらいで、消費税が1%下がれば年間で数千円の節約になりますし、確実に助かります。

M：その情報はどこから？

浅田香純：自分で計算しています。フリーランスは家計管理を徹底しないといけないので、税率の変化には敏感です。

M：何か実感として感じているものはありますか？

浅田香純：物価が上がっているのは感じています。スーパーで同じものが前より高くなっていますし、子どもの食費も増えています。収入が上がらない中で物価だけ上がるのは厳しいです。

M：それについてはどう思いますか？

浅田香純：フリーランスの収入が不安定な中で物価が上がると本当に厳しいです。消費税が少しでも下がれば助かります。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

浅田香純：就任前から経済に積極的という印象でした。食料品消費税ゼロの公約はフリーランスとして「良い方向だ」と思いましたが、1%案になっても理由がわかれば納得できます。今日の話を聞いてよかったです。

M：フリーランス翻訳というお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

浅田香純：フリーランスへの支援が一番気になります。インボイス制度で負担が増えたので、フリーランスの収入が安定しやすい環境を作ってほしいです。食料品消費税の話も大事ですが、フリーランス支援も合わせて考えてほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

浅田香純：方向性は良いと思います。今日の話でレジシステムの理由もわかりましたし、1%案は現実的な判断だと思います。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと伝えますか？

浅田香純：「食料品の1%案、早く始めてください。フリーランスの収入は不安定なので食費が少しでも下がれば助かります。インボイス制度で負担が増えたフリーランスへの支援もセットで進めてほしいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

浅田香純：フリーランスの収入が不安定で食費の節約は切実ですし、インボイス制度で消費税の制度変更の大変さを知っているから、食料品消費税の変更も早く確定してほしいからです。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

浅田香純：します。夫は「食費が下がれば助かるね」と言っていました。インボイスの話をする「大変だったね」と言っています。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

浅田香純：「インボイスで消費税の大変さを知っているから1%案は納得、フリーランスの収入が不安定だから食費節約は切実」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

浅田香純：インボイス制度で消費税の制度変更が大変なことを経験しているので、レジシステムの理由はよくわかります。フリーランスの収入は不安定なので食費が少しでも下がれば確実に助かります。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

浅田香純：今日の話で1%案の理由がわかって良かったです。フリーランスとして消費税の制度変更には敏感なので、早く確定してほしいです。フリーランスへの支援も合わせて進んでほしいです。

M：ありがとうございました。

No.96 「システムの問題なら納得、1%で半年早く食費が下がる方が助かる——塾代がかかる子 2 人持つ社労士・43 歳」

対象者プロフィール

氏名	小澤 真理子
居住地	千葉県市川市
年齢・性別	43 歳・女性
職業	社会保険労務士（自営）
家族構成	夫（会社員）・子 2 人（14 歳・11 歳）
政治関心/知識	高／高

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「家計として、1%で半年早く始まる方がいいです」と述べた。「公約と実際の政策の間には様々な事情があることは理解していたので、何らかの修正はあると思っていました」と語り、システム問題の説明に「確かに全国の小売店のシステムを変えるのは相当な作業」と受け入れた。

推論：社会保険労務士として政策の実務的ハードルへの理解があったため、システム問題の説明が既存の想定と合致した。「家計として」という留保を繰り返すことで、専門家の視点と生活者の視点を意識的に区別している。

FD：小澤にとって消費税 1%案への賛成は、社会保険労務士として政策修正を想定していた上での、塾代がかかり始めた 14 歳・11 歳の子育て家庭としての家計的支持だ。「家計として」という言葉の繰り返しに、知識の豊かさを生活者視点の語りに収めようとする意識が出ている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「月 8～9 万円の食費で、1%になれば年間 6～7 万円変わる。14 歳の子どもが塾に行き始めて月 3～4 万円の塾代がかかっているので、食費が少しでも下がれば助かります」と述べた。

推論：食費節約（年間 6～7 万円）と塾代（月 3～4 万円）を同じ文脈で語ることで、消費税節約が塾代への振り替えとして具体的に位置づけられている。節約額の把握が正確であり、消費税の知識を持った語り口になっている。

FD：小澤における消費税は「塾代という新しい出費が増えてきた子育て家庭の、食費節約を教育費への振り替えとして語る家計課題」だ。専門知識と生活者視点が交差しながら、家計の実感として消費税問題が語られている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「14 歳の上の子が来年高校受験で、その後は大学費用もかかってくる。食費の消費税が下がるのは家計として助かりますが、教育費の方が今後の家計では大きな課題です」と述べた。

推論：高市総理への評価は食料品消費税の方向性への受け入れだが、受験というタイムラインが見えている教育費の方が「大きな課題」として前景化している。「家計として」という留保を保ちながら、消費税節約を教育費という別の課題と対比させて語っている。

FD：小澤の高市評価は「食費が下がるのは家計として助かる、でも来年の受験以降の教育費の方が大きな課題」という受験期の子育て家庭の母親としての正直な優先順位だ。消費税節約が「今必要な部分的な助け」として教育費課題の前で相対化されている。

【全体総括】

根拠：「システムの問題なら納得できる、家計として 1%で半年早く始まる方が塾代がかかる子育て家庭には助かる」と締めた。「14 歳と 11 歳の子どもの塾代や受験費用がかかっている時期です」という言葉が動機の背景を示している。

推論：小澤を貫く行動原理は「社会保険労務士として政策の実務的ハードルを理解した上で、塾代・受験費用がかかる 14 歳・11 歳の子育て家庭として、食費節約を教育費への振り替えとして語り、ゼロより半年早い 1%を家計の現実から支持する」だ。

FD：小澤真理子の特徴づけるのは「社会保険労務士として政策修正を想定していたためシステム問題の説明が既存の納得感に合致し、「家計として」という留保を繰り返しながら 14 歳・11 歳の塾代・受験費用という具体的な家計課題からゼロより半年早い 1%を支持した 43 歳」だ。「家計として」という言葉の繰り返しに、専門知識と生活者視点を意識的に区別する姿勢が出ている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

小澤真理子：社会保険労務士として自営でやっています。夫と子どもが二人、14 歳と 11 歳です。市川市に住んでいます。子どもが中学生になって塾代がかかるようになってきました。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

小澤真理子：知っています。高市総理が食料品消費税ゼロを公約にして、政府内で 1%案が議論されているという話ですね。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

小澤真理子：家計として話すと、食費は月 8～9 万円くらいかかっています。14 歳と 11 歳の子どもがいて食費が増えてきています。物価も上がっているので出費が増えています。消費税が下がれば助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

小澤真理子：家計として助かります。月 8～9 万円の食費で 8%から 1%になれば月 5,000～6,000 円変わります。14 歳の子どもの塾代に回せます。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

小澤真理子：覚えています。ゼロになったら良かったなとは思っています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

小澤真理子：驚かなかったです。公約と実際の政策の間には様々な事情があることは理解していたので、何らかの修正はあると思っていました。

M：1%になったとしたら、家計として評価しますか？

小澤真理子：家計として評価します。8%より助かることは間違いありません。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

小澤真理子：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

小澤真理子：なるほど、レジシステムの実務的な問題なんですね。確かに全国の小売店のシステムを一斉に変えるのは相当な作業になります。家計として考えると、1%で半年早く始まる方がいいです。14 歳と 11 歳の子どもがいる今の塾代がかかる時期に、早く始まってほしいですから。

M：まずご家族の食費という立場で聞かせていただけますか。半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

小澤真理子：そうですね。家計として早い方が助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

小澤真理子：早く確定してほしいです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

小澤真理子：消費税の制度については把握しています。軽減税率の仕組みも理解しています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

小澤真理子：月 8～9 万円の食費で、1%になれば年間で 6～7 万円変わります。14 歳の子どもが塾に行き始めて月 3～4 万円の塾代がかかっているの、食費が少しでも下がれば助かります。

M：その情報はどこから？

小澤真理子：ニュースで見えています。夫とも話しています。自分でも計算しました。

M：何か実感として感じているものはありますか？

小澤真理子：物価が上がっているのは実感しています。スーパーで同じものが前より高くなっているのがわかります。子どもが大きくなって食費も増えているので、消費税が下がれば家計として助かります。

M：それについてはどう思いますか？

小澤真理子：家計として食費が少し下がれば助かります。塾代や教育費が増えてきている時期なので。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

小澤真理子：積極的な印象があります。食料品消費税の話は家計として良い方向だと思います。

M：14 歳と 11 歳のお子さんを持つ母親という立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

小澤真理子：子どもの教育費がどうなるかは気になります。14 歳の上の子が来年高校受験で、その後は大学費用もかかってきます。食費の消費税が下がるのは家計として助かりますが、教育費の方が今後の家計では大きな課題です。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

小澤真理子：家計として方向性は良いと思います。今日の話でシステムの問題だとわかって、1%案の理由が理解できました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

小澤真理子：「食費が少し下がれば家計として助かります。1%案で早く確定してください。教育費の支援も合わせてお願いしたいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

小澤真理子：14 歳と 11 歳の子どもを育てていて、塾代や受験費用が重なっています。食費が少しでも下がれば、その分を子どものために使えます。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

小澤真理子：します。夫も「食費が下がれば助かる」と言っています。家計については二人で話し合っています。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

小澤真理子：「システムの問題なら納得できる、家計として 1%で半年早く始まる方が塾代がかかる子育て家庭には助かる」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

小澤真理子：14 歳と 11 歳の子どもの塾代や受験費用がかかっている時期です。システムの問題で半年早く始まるなら、1%の方が今の家計には良いです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

小澤真理子：今日の話でシステムの問題だとわかって良かったです。早く確定してほしいです。

M：ありがとうございました。

No.97 ゼロじゃないのか、でも 1%でも早く来てほしい——夫が就活中の 32 歳専業主婦の本音

対象者プロフィール

氏名	桑田 由紀
居住地	千葉県船橋市
年齢・性別	32 歳・女性
職業	専業主婦
世帯年収	約 380 万
家族構成	夫（パート・就活中）・子 1 人（3 歳）
政治関心/知識	低/低

3 分ブリーフィング

【1. 導入】

根拠：「ゼロになるなら助かるな、と思った。うちは夫が仕事を探していて毎月の食費がギリギリなので」と語った。最初の反応に生活の切迫感が直接出た。

推論：桑田の第一反応は「助かるか助からないか」という生活直結の評価だ。政策への賛否より「自分の家庭に届くかどうか」という一点に集中している。「うちみたいな普通の家庭のことをちゃんと考えてくれるのかな」という疑問は、以前から政治への距離感として存在していた。

FD：食料品消費税の議論への関心は「政策論」ではなく「今月の食費」から発生している。政治への期待と不信が共存しており、期待したいが裏切られることを恐れるという防衛的な構えが初期から出た。

【2. Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「ゼロじゃないのかとガッカリはするけど、1%でも動いてくれるなら何もしないよりはいい」と述べた。レジシステムの理由を聞いて「1%の方が半年早いなら、うちの家計では半年は長いので、早い方がいい」と即座に答えた。

推論：桑田の評価基準は「少しでも助かるかどうか」であり、完璧を求めない。ゼロから 1%への変更に失望はあるが、「1%でも動く政治」を「何もしない政治」より明確に上位に置いている。レジシステムの理由への反応が速く、「半年早い方が助かる」という生活実感から即座に判断した。

FD：「ゼロの方がよかった、でも 1%でも早く来てほしい」という言葉が、このパネルの消費税への態度を端的に示している。完璧より「少し早く届く」ことを優先するという、生活の切迫感から来る現実的な判断がある。

【3. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「消費税が下がっても物の値段がそのままなら楽にならないかもしれない」という不安を語った。また「税金払ってるのに、困った時に助けてもらえてる感じがしない」と述べた。

推論：消費税知識は薄い、「消費税が下がっても物価が下がらなければ意味がない」という洞察は実生活から来ている。税率変更時の価格転嫁への不信は経験的なものだ。社会保障への不信も「自分のところに届かない」という実感から来ており、制度の問題ではなく「自分が対象外」という疎外感として表れている。

FD：消費税議論の核心（0%か1%か）を理解しながら、「本当に生活に届くのか」という疑問を持っている。知識は低いが生実感から来る疑問は具体的で鋭い。「誰が使ってるんだろう」という言葉は、制度への不信というより「自分たちが忘れられている」という感覚を示している。

【4. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「女性の総理だから主婦の気持ちをわかってくれると思った」という就任時の期待を語った。メッセージは「私たちみたいな家庭のことを、忘れないでください」。

推論：高市への期待の根拠は「女性であること」だった。その期待が「消費税変更」によって揺らいでいるが、憎しみや強い批判ではなく「また信じていいのかな」という迷いとして表れている。メッセージの「忘れないで」という言葉が、このパネルの政治への感情を最も端的に示している——怒りではなく、見えていないことへの訴えだ。

FD：高市への評価は「女性であること」への共感から始まり、「生活の実態を知っているか」への疑問に移行している。消費税1%案については「説明があれば納得できた」という言葉が示すように、変更そのものより説明不足が不満の核心だ。

【全体総括】

根拠：締めの一言は「少しでいいから、楽にしてほしい」。「大きなことじゃなくていい。今より少しだけ楽になれば、もう少し頑張れる気がする」と語った。

推論：桑田の政治への要求は「少し」だ。完璧な解決を求めず、「今より少し楽になる」ことへの切実な希望がある。この「少し」という言葉は諦めではなく、ギリギリの生活の中で維持している前向きさの表れだ。消費税1%案も、その「少し」の中に入っている。

FD：「少しでいいから楽にしてほしい」という言葉は、このパネルの生活状況と政治への距離感を最も端的に示している。大きな変化への期待ではなく、今日より少し楽な明日への希望。消費税ゼロか1%かという争点は理解しているが、それより夫の就職・保育支援・生活支援という「もっと根っこ」への訴えが全体を貫いている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：桑田さん、今日はよろしくお願いします。正解のない話なので、思ったことをそのままお話しください。最近、食料品の消費税についての議論が出ていますが、ご存知でしたか？

桑田由紀：なんとなく聞いたことがあります。ゼロにするって話があつて、でも難しいとかって.....ニュースで見たかな。正直、詳しくはわからないんですけど。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

桑田由紀：本当？って思いました。消費税って上がることはあっても、下がるって聞いたことなかったの。ゼロになるなら、すごく助かるなって。うちは今、夫が仕事を探していて、私はパートにも出られなくて.....毎月の食費が本当にギリギリなので。

M：「本当に下がるのか」と思ったのはなぜですか？

桑田由紀：なんか.....政治家さんって選挙の時にいいこと言って、なつてから変わることが多い気がする。ゼロって言うってくれるのは嬉しいけど、本当にそうなるのかなって半信半疑で。うちみたいな普通の家庭のことを、ちゃんと考えてくれてるのかなって思うことが多くて。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

桑田由紀：え、ゼロじゃないんですか.....。でも、1%でも下がるなら、下がる方がいいです。今 8%でしょ？1%になったら、だいぶ違いますよね。3 歳の子どもがいて食費かかるし、夫が仕事を探してる間は私が全部やりくりしなきゃいけないから。1 円でも安くなるのはありがたいです。

M：ゼロじゃないと聞いて、どう感じましたか？

桑田由紀：やっぱりそうか、って感じです。ゼロって言ったのに、ってガッカリはしますけど.....でも 1%でも動いてくれるなら、何もしないよりはいい。「ゼロじゃないなら意味ない」とは思わないです。今の私には、少しでも助かる方がいいから。

M：なぜ 1%という案が出ているか、ご存知ですか？

桑田由紀：わかりません。何か難しい事情があるんでしょうか。

M：スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させる改修に時間がかかるためです。0%だと約 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

桑田由紀：レジのシステム.....そういうのに時間かかるんですね。知らなかったです。じゃあ 1%の方が半年早く変わるってことですよね。それなら 1%の方がいいと思います。半年って、うちの家計では長いので。

M：半年の違いが大きいということですか？

桑田由紀：大きいです。今、毎月本当にギリギリで。夫の就活がいつ終わるかわからないし、その間は本当に切り詰めてる。半年早く食費が少し下がるなら、それは助かります。ゼロの方がよかったけど、1%でも早く来てほしい。

M：まだ決まっていなそうです。それを聞いてどう思いますか？

桑田由紀：早くしてほしいです……。うちみたいな家庭は、今も毎日やりくりしてるので。決まるのを待ってる余裕がないというか。「検討中」って言葉、何度も聞ける気がして。

Part 2：消費税についての認知・考え

M：消費税についての知識や情報、考えを自由にお話してください。

桑田由紀：消費税.....スーパーで払ってるのはわかります。食品は8%で、他のものは10%って。子どもの服とか日用品とか買うと、結構かかるなって思います。食品は8%だからまだいいけど、それでもバカにならなくて。

M：その情報はどこから？

桑田由紀：レシート見てます。あとはネットでたまに見ます。SNSとかで「消費税がどうなる」って話が出てると読んだりして。でも難しい話になるとついていけなくて.....。

M：実感として感じていることはありますか？

桑田由紀：食費がきついです、本当に。最近は特に高くなった気がして。前は同じ金額で買ってたものが、最近はちょっと足りない感じがする。これって消費税が上がったのかなって最初思ってたんですけど、消費税は変わってないって聞いて。じゃあなんで高いんだろうって。

M：消費税は変わっていないと知って、どう思いましたか？

桑田由紀：じゃあ物が高くなってることですね。消費税じゃなくて。でも、どっちにしても高くなってるのはキツくて。消費税が下がっても、物の値段が上がってたら意味ないのかなって心配になります。消費税1%下がっても、物の値段がそのままだったら助かるけど、物の値段もまだ上がったら.....全然楽にならないじゃないですか。

M：物の値段が下がらないかもしれないという不安は、どこから来ていますか？

桑田由紀：なんか.....消費税が8%から10%に上がった時も、上がった分だけ安くなったっていう感じはなかったんですよ。むしろそのままか、もっと高くなった気がして。だから下がる時も、ちゃんと値段に反映されるのかなって信用できなくて。

M：消費税について、他に気になることはありますか？

桑田由紀：消費税って、何に使われてるんですかね。社会保障に使われるって聞いたことあるけど、実感がありませんよ。子どもの保育園も高いし、夫が仕事を探してる間の支援も足りないなって感じるし。税金払ってるのに、自分たちのところに届いてない気がして。

M：届いていない気がするの、具体的にどういうことですか？

桑田由紀：保育園に入れるかどうかって、まだ地域によって大変じゃないですか。私の子どもは入れてもらえたけど、友達は入れなくて困ってたし。それに夫が仕事探してる間、何か支援があるのかなって調べてもよくわからなくて。税金はちゃんと払ってるのに、困った時に助けてもらえてる感じがしない。誰が使ってるんだろうって思います。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

桑田由紀：就任した時に、女性の総理が初めてって聞いて、ちょっと嬉しかったです。私みたいな主婦の気持ちをわかってくれるかなって思って。消費税ゼロって言ってたのも、「この人は生活のことを考えてくれてるんだな」って思いました。でも最近は.....どうなのかなって。消費税の話も変わってきてるし。

M：「どうなのかな」という感覚はどこから来ていますか？

桑田由紀：ゼロって言ってたのに、って思うと.....信じていいのかなって。別に高市さんが嫌いとかじゃないけど、前に期待してたことが変わってきてる気がして、また期待していいのかなって迷う感じです。女性の総理だからこそ、主婦の大変さをわかってほしいって思うんですけど、届いてるのかな。

M：桑田さんの立場——夫が就活中で、3歳の子どもの育てている立場から見て、高市総理についてどんなことが気になりますか？

桑田由紀：夫の仕事のこと、かな。就活してても、なかなか決まらなくて。30代でも正社員になれないって、今の日本ってそういう状況なんだなって感じて。消費税が下がるのは助かるけど、夫が仕事に就けて安定した収入が入るようになる方が、もっと助かる。政治って、そういう人たちのことをちゃんと考えてくれてるのかなって疑問があります。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

桑田由紀：ゼロって言ってたのに1%になりそうなのは、正直ガッカリはします。でも1%でも下げようとしてくれるなら、全然やらないよりはいい。ただ.....なぜゼロじゃなくなったのか、説明してほしいなとは思います。さっきレジのシステムの話聞いてやっと「そういう理由があるのか」ってわかったけど、それをちゃんとニュースで教えてくれてたら、もう少し納得できてたかもしれない。

M：今の高市総理に一言メッセージを送るとしたら、何と言いますか？

桑田由紀：「私たちみたいな家庭のことを、忘れないでください」ってお願いしたいです。夫が仕事を探してて、子どもが小さくて、毎日やりくりしてる家庭って、たくさんあると思うんですよ。そういう家庭が少し楽になれる政治をしてほしい。消費税が1%下がるのもそのひとつだけど、もっと根っこのところから助けてほしいです。

M：なぜそのメッセージを伝えたいのですか？

桑田由紀：見えていないと思うから、です。総理とか政治家の人たちが、私たちみたいな生活をリアルにわかっているとは思えないんですよ。夫の就活が続いてどれだけ不安か、3歳の子どもを抱えながらやりくりしてる毎日がどれだけキツいか。ニュースで「支援します」って言葉は聞くけど、自分のところには届いてない感じがずっとあって。だから、「忘れないで」って言いたいです。

締め

M：ご主人とこういった消費税や政治の話をすることはありますか？

桑田由紀：します。夫も仕事探しながら、食費のこととかニュースを気にしてるので。「消費税下がるって本当かな」「どうなんだろうね」って話すことはあります。夫は「決まってから考えよう」って言うタイプで、私は「早く決まってほしい」って思うタイプで。でも2人ともに、今の生活を少しでも楽にしたいっていう気持ちは同じです。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

桑田由紀：「少しでいいから、楽にしてほしい」です。

M：なぜそう思いますか？

桑田由紀：大きなことじゃなくていいんです。消費税が1%下がりて食費が少し助かる、それだけでも今の私にはすごく大きい。完璧じゃなくていい、全部解決じゃなくていい。今より少しだけ楽になれば、もう少し頑張れる気がするから。政治に完璧を求めてないけど、「少し」くらいは届けてほしいって思っています。

M：今日話して、言い忘れたことや改めて思ったことはありますか？

桑田由紀：今日、レジのシステムの話聞いてちょっとスッキリしました。なんで1%なんだろうってモヤモヤしてたけど、理由があるならわかるので。そういうことを、最初からちゃんと教えてほしいなと思います。難しい話じゃなくていいので、「こういう理由でこうなります」って。私みたいに詳しくない人でもわかるように言ってくれたら、もう少し信頼できる気がします。

No.98 プロセスを見せてください——公約はゼロ、なぜ 1%かの根拠が見えない、コンプライアンス担当 45 歳の問い

対象者プロフィール

氏名	岩田 有里
居住地	千葉県松戸市
年齢・性別	45 歳・女性
職業	会社員（正職員・コンプライアンス担当）
世帯年収	約 1,000 万（共働き）
家族構成	夫（会社員）・子 1 人（14 歳）
政治関心/知識	高／高

3 分ブリーフィング

【1. 導入】

根拠：「公約を変更するなら理由と経緯を説明する義務がある。私の仕事でも約束した内容を変更する時は必ず関係者への説明と合意が必要」と語った。

推論：岩田の消費税への反応は、生活費への影響より「制度変更のプロセス」への評価から始まった。コンプライアンス担当という職業が、政治の約束の扱い方への感度を鋭くしている。

FD：食料品消費税の議論を「生活費の問題」としてではなく「約束とプロセスの問題」として最初に捉えた唯一のパネルだ。数字より手続きへの関心が先に来るという、他のパネルとは異なる認知の入口を持っている。

【2. Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「1%という数字の根拠が見えない。なぜ 1%なのか説明がないと評価しようがない」と述べた。また「公約でゼロと言っておいて後から技術的な制約を理由に変更するのは、プロセスとしておかしい。本来は実現可能性を先に検討すべき」と指摘した。

推論：岩田の批判は「1%がいいか悪いか」という数字の議論ではなく、「公約策定のプロセス」への批判だ。ゼロを先に言って後から理由を探すという順序自体を問題視しており、これは仕事上の「コンプライアンス感覚」が直接政治評価に転用されている。

FD：1%案への賛否は「方向性は理解できるが数字の根拠が不透明」という留保付き理解にとどまる。批判の核心は数字でなくプロセスにあり、「今回うまくいっても公約は変わるものという前例を作る問題」という長期的視点が特徴的だ。

【3. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「消費税の逆進性を食料品の税率引き下げで解決するのは完全ではない。給付つき税額控除の方が的確に届く」と述べた。また「社会保障のための消費税と言われるが使途が見えない。透明性と説明責任が足りない」と語った。

推論：消費税制度への理解は高く、政策論として逆進性対策の手段比較まで行っている。ただしその知識は「感情の整理」ではなく「プロセスと制度設計への批判的評価」に向かっている。使途の不透明性への批判も、財源の多寡ではなく「報告責任」の欠如として捉えている。

FD：消費税を「生活費の問題」として語らず「制度設計と運用の問題」として語るパネルだ。世帯収入が高く直接の生活インパクトが小さいことも、議論を抽象化・構造化する方向に作用している。知識と職業倫理が組み合わさった評価軸は、他のパネルと質的に異なる。

【4. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「能力はあると思うが約束の扱い方に課題がある」と述べ、メッセージは「プロセスを見せてください」。「結果がよくてもプロセスが不誠実なら次の不信につながる」と語った。

推論：高市への評価は能力と誠実さを分離して行われている。能力は認めるが、公約変更のプロセスに誠実が見えないことで評価が下がった。これは「人は結果ではなくプロセスの誠実さで信頼する」という職業的信念と直結している。

FD：高市評価の軸が「女性かどうか」「消費税がどうなるか」ではなく「プロセスの透明性と説明責任」にある。消費税議論に限らず、政治全体への信頼構造を「プロセスの誠実さ」で測るという一貫した価値観が全編を貫いている。

【全体総括】

根拠：締めの一言は「結果より、プロセスを信じたい」。「結果が完璧でなくても、誠実なプロセスを踏んでいれば信頼できる。今の政治に足りないのはそこ」と語った。

推論：岩田のインタビュー全体を貫くのは「プロセスへの信頼が結果への信頼を作る」という価値観だ。消費税ゼロか1%かという争点は理解しているが、それより優先する軸が「約束の扱い方」にある。この価値観はコンプライアンスという職業と不可分に結びついている。

FD：消費税0%か1%かという争点を正確に把握しながら、その争点より上位にある「政治のプロセス」への評価軸を持つ稀なパネルだ。「プロセスを信じたい」という言葉の裏には「今は信じられていない」という現実があり、高知識層の政治不信の構造を示している。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：岩田さん、今日はよろしくお願いします。正解のない話をしますので、思ったことをそのままお話してください。最近、食料品の消費税についての議論が出ていますが、ご存知でしたか？

岩田有里：もちろん知っています。高市総理が選挙公約で「食料品消費税を2年間ゼロにする」と掲げて、それが争点のひとつになっていましたよね。今は1%案が浮上しているという話も、ニュースで見えています。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

岩田有里：最初に公約を聞いた時は、「本当にできるのか？」と思いました。財源の問題や実務上の問題を考えると、簡単ではないはずで。ただ、公約として掲げた以上は、それに向けて最大限努力すべきだとも思っていました。そして1%案が出てきた時——正直、「やっぱり」という気持ちと、「ちゃんと説明してほしい」という気持ちが同時にありました。

M：「やっぱり」と思った理由と、「説明してほしい」という気持ち、それぞれもう少し聞かせてもらえますか？

岩田有里：「やっぱり」というのは——消費税ゼロというのは制度的にかなり難しい話で、現実的に無理が出てくるだろうとは思っていたからです。ただ、それは感情の話で。「説明してほしい」というのは仕事上の感覚に近くて、公約を変更するならその理由と経緯を国民にきちんと説明する義務があると思うんです。私の仕事でも、約束した内容を変更する時は必ず関係者への説明と合意が必要です。それが政治でできていないのは、問題だと感じています。

M：食料品消費税を1%にするという案については、どう思いますか？

岩田有里：方向性としては理解できます。ゼロが難しいなら段階的に、という考え方は合理的です。ただ、「1%」という数字の根拠が私には見えていない。なぜ1%なのか、2%や3%ではなくなぜ1%なのか。その説明がないと評価しようがないんですよね。数字ありきで議論が進んでいる印象があって、プロセスが不透明に感じます。

M：なぜ1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

岩田有里：レジのシステム改修の問題だと聞いています。ゼロだと対応に時間がかかる、1%なら短縮できるという技術的な理由ですよね。

M：そうです。0%だとシステム改修に約1年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

岩田有里：技術的な理由があるなら、それはわかります。ただ——それならそれで、最初から「ゼロは技術的に難しい、段階的にやる」と説明すべきだったと思うんです。公約でゼロと言っておいて、後から技術的な制約を理由に変更するのは、プロセスとしておかしい。本来は政策を決める前にその実現可能性を検討すべきであって、公約を先に出して後から「できない理由」を探す順序になってしまっている。

M：半年早いなら、1%の方がいいということですか？

岩田有里：実現が半年早まるのは生活者としては助かります。うちは子どもが14歳で食費もかかりますし。ただ私が言いたいのは、数字の良し悪しより、政治が約束をどう扱うかというプロ

セスの問題なんです。今回うまくいったとしても、「公約は変わるもの」という前例を作ることの方が長期的には問題だと感じています。

M：まだ決まっていないそうです。それを聞いてどう思いますか？

岩田有里：早く決めてほしいです。ただ「早く」と「適切なプロセスで」は両立できると思っています。決まらないのは検討が足りないのか、それとも政治的な駆け引きが続いているのか。後者だとしたら、その間も国民は8%を払い続けているわけで、それは誰のための「検討中」なのかと思います。

Part 2：消費税についての認知・考え

M：消費税についての知識や情報、考えを自由にお話してください。

岩田有里：消費税については、制度の仕組み自体はある程度理解しているつもりです。国と地方への配分、社会保障財源としての位置づけ、軽減税率の線引きの問題。ただ、知れば知るほど制度が複雑になっていると感じていて、それ自体が問題だと思っています。軽減税率を入れた時に線引きが曖昧になって、現場が混乱した話は職場でも聞きました。

M：その情報はどこから？

岩田有里：ニュースや経済誌、あとはPTAや地域の活動で話題になることもあります。子どもが中学生なので学費や給食費の話が出る場面で、税の話になることがあって。あとは仕事柄、制度の変更が会社の業務にどう影響するかを考えることがあるので、そういう観点でニュースを見ることが多いです。

M：実感として感じていることはありますか？

岩田有里：食費は確かに上がっていますね。ただ私の場合——これは正直に言いますが——世帯収入が高い方なので、食費の消費税が1%変わることへの生活上の直接的なインパクトは大きくないんですよ。それより私が気になるのは、制度の公平性の問題です。消費税の逆進性——低所得者ほど負担が重い構造——これはずっと言われてきた問題で、食料品の税率を下げるのが本当にその解決になるのかどうか。

M：逆進性への対策として、食料品の消費税引き下げをどう評価しますか？

岩田有里：方向性は正しいと思います。ただ完全な解決策ではない。真に低所得層を支援するなら、食料品の税率を下げるよりも給付つき税額控除のような仕組みの方が的確に届くという議論があります。食料品の税率を下げると、富裕層も同じ恩恵を受けるわけで、再分配の観点では効率が悪い。でもそれを言い出すと制度が複雑になる。このジレンマをどう解決するかが政治の仕事だと思いますが、今の議論はそこまで深くなっていない印象があります。

M：消費税について、他に気になることはありますか？

岩田有里：使途の透明性ですね。「社会保障のための消費税」と言われていますが、実際にどこにどう使われているのかが見えにくい。コンプライアンスの仕事をしていると、報告の透明性と

説明責任への感度が高くなるんですよ。税金の使途についても同じことで、集めた財源がどう使われているかを政府がもっとわかりやすく示す義務があると思っています。それが無いから「どこに消えたんだ」という不信が生まれる。

M：その不信、岩田さんご自身も感じていますか？

岩田有里：感じています。知識として制度を理解していても、「本当にそう使われているのか」という確認ができない。民間企業なら会計報告があつて、監査があつて、透明性が担保される。政府の予算は規模が大きすぎて、一般市民には追いきれない。その非対称性が不信の根本にあると思います。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

岩田有里：就任前から政策通というイメージはありました。経済安全保障や技術政策への関心が高く、勉強している政治家家だという印象。就任してからは——消費税の話で「公約とプロセス」の問題が出てきてから、少し評価が下がっています。能力はあると思うんですけど、約束の扱い方に課題を感じています。

M：その感覚はどこから来ていると思いますか？

岩田有里：仕事の感覚が入っているのかもしれませんが。コンプライアンスの仕事では、どんな理由があっても約束を変更する時は丁寧な説明と誠意が必要です。それが政治では「状況が変わった」「調整中」という言葉で済まされることが多くて。能力のある人が、プロセスの部分で足をすくわれているように見えます。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

岩田有里：結果より過程が問題だと思っています。1%になること自体は、理由があれば理解できる。でも「なぜ変わったのか」「どのプロセスで決まったのか」が見えない。それが私には引がかかっています。政策の変更は起こりうる。でもその変更を国民にどう説明するかが、政治家の誠実さを示す場面だと思っています。その場面で誠実さが見えないのが残念です。

M：今の高市総理に一言メッセージを送るとしたら、何と言いますか？

岩田有里：「プロセスを見せてください」と言いたいですね。何を決めたかより、なぜそう決めたかのプロセスを国民に見せる政治をしてほしい。それが信頼の根拠になると思うので。公約を変更する時も、説明責任を果たしてからにしてほしいです。

M：なぜそのメッセージを伝えたいのですか？

岩田有里：プロセスの透明性がなければ、結果がいくら良くても信頼が積み上がらないからです。コンプライアンスの仕事で実感しているんですが、人は「結果がよかったから」ではなく「プロセスが誠実だったから」信頼するんですよ。政治も同じで、今は結果だけを見せようとして、プロセスを隠す傾向がある気がして。それが政治不信の一因だと思っています。

締め

M：ご主人とこういった消費税や政治の話をすることはありますか？

岩田有里：しますよ。夫も関心が高い方なので、ニュースを見ながら話すことはよくあります。夫は「消費税より所得税の方が重要だ」という立場で、食料品の税率の話にはそれほど関心がなない。私は制度のプロセスと透明性の話をする。議論の軸が少し違うんですけど、お互いの意見を聞きながら考えを整理することはありますね。子どもも時々聞いていて、「学校で消費税習ったけど難しかった」と言っていました。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

岩田有里：「結果より、プロセスを信じたい」ですね。

M：なぜそう思いますか？

岩田有里：消費税が1%になるか0%になるか、その数字は生活に影響します。でも私が政治に求めているのは、正しいプロセスで正しい決断をすること——その姿勢だと思うんです。結果が良くても、プロセスが不誠実なら次の不信につながる。逆に結果が完璧でなくても、誠実なプロセスを踏んでいれば信頼できる。今の政治に足りないのはそこだと感じています。今日話して、改めてそこが自分の核心だとわかりました。

M：今日話して、言い忘れたことや改めて思ったことはありますか？

岩田有里：消費税の話は、もっと長期的な視点で議論してほしいと思います。ゼロにするか1%にするかという話は短期の議論で、それより財政の持続性や社会保障の将来像との整合性を示してほしい。14歳の子どものいると、20年後・30年後のことを考えるんですよ。今の消費税の議論が、その将来像の中でどう位置づけられるのか。それが見えないまま「ゼロか1%か」の話だけが進んでいることに、少し不安を感じています。

No.99 「子どもの塾代と食費が重なって大変、食費が1%でも下がれば教育費に回せる」――塾で教える39歳パート

対象者プロフィール

氏名	平川 洋子
居住地	千葉県千葉市
年齢・性別	39歳・女性
職業	パート（塾）
家族構成	夫（会社員）・子2人（10歳・7歳）
政治関心/知識	中／低

3分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「塾でも教材のシステムや管理システムが変わるたびに対応が大変です。レジシステムの話はよくわかります」と述べ、レジシステム説明に共感した。「子どもの塾代と食費が重なって大変なので、1%でも早く食費が下がれば教育費に回せます」と応じた。

推論：塾でのシステム変更対応経験がレジシステムへの共感の根拠になっている。「子どもの塾代と食費が重なって大変」という家計の二重の負担感が、食費節約への切実な動機を生んでいる。食費節約の使い道として「教育費に回せる」という具体的な転用先が示されており、家計管理の厳しさを反映している。

FD：平川にとって消費税1%案への賛成は、塾でのシステム変更経験からレジシステム理由に共感し、子どもの塾代と食費が重なる家計の二重の負担から食費節約を切実に求め、節約できた分を教育費に回したいという具体的な動機を持つ切実な賛成だ。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「食費は月6～7万円くらいかかっています。子どもが二人で塾代もあって家計は厳しいです」と述べた。「消費税が1%下がれば年間数千円の節約になります。それを塾代や教材費に回せば助かります」と応じた。

推論：世帯年収490万円・夫がパートとして働く家計で、子ども二人分の塾代という大きな固定費がある。「塾代に回せば」という言葉に、食費節約が単なる節約ではなく教育投資に振り向けるという明確な目的意識がある。塾で働く自分が子どもの塾代を払うというアイロニーも家計の現実を物語っている。

FD：平川における消費税は「塾代という大きな固定費が家計を圧迫する中で、食費節約を教育費の補填として位置づける」という切実な家計管理の一部だ。塾パートとして子どもの教育の重要性を知っているからこそ、教育費への転用動機が強く出る。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「子育て支援と教育費の負担軽減も合わせて考えてほしいです。塾代が高くて家計が苦しいので」と述べた。

推論：食料品消費税への賛成と並行して、子育て・教育費への政策要求が出てくる。塾で働く立場から教育の重要性を理解しており、教育費負担の重さが高市評価の文脈に加わっている。消費税削減を評価しながらも、より根本的な教育費支援への要求が強い。

FD：平川の高市評価は「1%案は早く始めてほしい、子育て・教育費の支援も合わせて」という切実な並列要求だ。食料品消費税への賛成が子どもの教育費という最大の生活課題の文脈に置かれており、消費税削減だけでは家計の根本的な解決にならないという意識がある。

【全体総括】

根拠：「子どもの塾代と食費が重なって大変、食費が1%でも下がれば教育費に回せる」と締めた。「塾でシステムが変わるたびに対応が大変なのでレジシステムの話はよくわかります」と述べた。

推論：平川を貫く行動原理は「塾パートとして子どもの教育費負担の重さを知り、自分の子どもの塾代と食費が重なる家計の中で、食費節約を教育費補填として切実に求める」だ。食費節約の目的が教育費という明確な転用先に向かっている点が特徴的だ。

FD：平川洋子の特徴づけるのは「塾でのシステム変更経験からレジシステム理由に共感し、子どもの塾代と食費が重なる家計の厳しさの中で、食費が1%でも下がれば教育費に回せるという切実な動機から1%案を支持する39歳」だ。「食費が1%でも下がれば教育費に回せます」という言葉に、食費節約を教育投資に転用する切実な家計管理が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

平川洋子：塾でパートをしています。夫が会社員で、子どもが10歳と7歳います。千葉市に住んでいます。子どもも塾に通っていて、家計が結構大変です。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

平川洋子：なんとなく知っています。高市総理が食べ物の税金を下げるって言っていたのも、最近1%案の話も聞きました。

M：知っていることを教えてください。

平川洋子：ゼロという話があって、1%案になってきているという感じですね。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

平川洋子：子どもが二人いて食費は月 6～7 万円くらいかかっています。塾代もあって家計は結構厳しいです。消費税が下がれば少しでも助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

平川洋子：良いと思います。少しでも食費が下がれば、その分を塾代に回せますし。

M：なぜそう思いますか？

平川洋子：子どもの塾代と食費が重なって大変なので、食費が少しでも下がれば教育費に回せます。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

平川洋子：そういえばそんな話があったような気がします。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

平川洋子：特に驚かないですね。ゼロは難しいんだろうなと思っていました。

M：1%になったとしたら評価しますか？

平川洋子：評価します。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

平川洋子：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

平川洋子：ああ、レジのシステムの問題なんですね。塾でも教材のシステムや管理システムが変わるたびに対応が大変です。全国のスーパーが一斉に変わるとなれば確かに時間がかかりますよね。1%で半年早く始まるなら、子どもの塾代と食費が重なって大変なので早い方が助かります。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

平川洋子：そうですね。早く始まった方が助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

平川洋子：早く決めてほしいです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

平川洋子：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。消費税がどう使われているかは詳しくはないですが。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

平川洋子：食費は月 6〜7 万円くらいかかっています。子どもが二人で塾代もあって家計は厳しいです。消費税が 1%下がれば年間数千円の節約になります。それを塾代や教材費に回せば助かります。

M：その情報はどこから？

平川洋子：自分で計算しました。家計管理をしっかりしないといけないので。

M：何か実感として感じているものはありますか？

平川洋子：物価が上がっているのは感じています。スーパーで同じものが前より高くなっていますし、塾代も少しずつ上がっています。

M：それについてはどう思いますか？

平川洋子：消費税が少しでも下がれば助かります。食費が下がれば塾代に回せますし。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

平川洋子：あまり政治は見えていないですが、食料品の税金が下がるという話は良いと思いました。1%案になったのは残念ですが、理由があればわかります。

M：塾パートというお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

平川洋子：子育て支援と教育費の負担軽減が一番気になります。塾代が高くて家計が苦しいので。食料品消費税の話も大事ですが、教育費の支援も合わせて考えてほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

平川洋子：方向性は良いと思います。今日の話でレジシステムの理由もわかりましたし、早く確定してほしいです。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

平川洋子：「食料品の 1%案、早く始めてください。子どもの塾代と食費が重なって大変なので、食費が少し安くなれば助かります。教育費の支援も合わせてお願いします」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

平川洋子：子どもの塾代と食費が重なって家計が厳しいので、食費が少しでも下がれば教育費に回せます。教育費の支援も切実な問題です。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

平川洋子：します。夫は「食費が下がれば助かるね、塾代が大変だから」と言っていました。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

平川洋子：「子どもの塾代と食費が重なって大変、食費が1%でも下がれば教育費に回せる」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

平川洋子：塾でシステムが変わるたびに対応が大変なのでレジシステムの話はよくわかります。1%で半年早く始まるなら良いですし、食費が少し下がれば塾代に回せて助かります。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

平川洋子：今日の話で1%案の理由がわかって良かったです。子どもの教育費が大変なので、食費が少しでも下がれば助かります。早く確定してほしいです。

M：ありがとうございました。

No.100 「1%案は財政リスクを抑えながら低収入層に早く届ける合理的な政策判断」——経営企画として評価する 49 歳

対象者プロフィール

氏名	高原 晴美
居住地	千葉県柏市
年齢・性別	49 歳・女性
職業	会社員（正職員・経営企画）
家族構成	夫（会社員）・子 2 人（21 歳・19 歳）
政治関心/知識	高／高

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「税率ゼロという特殊な設定は通常の税率変更より複雑な対応が必要になる可能性があります。1%なら通常の税率変更の範囲内で処理できますが、ゼロは例外的な扱いになりやすい」と自ら分析した。「財政リスクを抑えながら半年早く実現できるなら、1%の方が合理的な政策判断です」と述べた。

推論：経営企画の仕事でシステム変更・コスト管理・財政影響を扱う経験から、レジシステム説明を聞く前からゼロの複雑さを自ら推測していた。財政リスクという管理職的な評価軸が、生活者としての食費節約より先に出てくる。逆進性の観点から「低収入層に早く届ける」という社会的意義の評価も示した。

FD：高原にとって消費税 1%案への賛成は、経営企画として財政リスクの観点から合理的と評価し、逆進性の緩和という社会的意義も認識した上での多角的な支持だ。世帯年収 1200 万円の生活者としての食費への切実さは薄く、政策の合理性という視点から評価が形成されている。100 名の最後の回答者として、最も政策的な視野からの評価を示した。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「消費税の仕組みから逆進性の問題、財源としての役割まで把握しています。会社の経営企画として税制変更が事業に与える影響を常に分析しています」と述べた。「個人の食費は月 10～11 万円くらいで節約効果は大きくないですが、逆進性の緩和として低収入層への政策効果は重要です」と応じた。

推論：消費税への知識が高く、逆進性という概念を自ら語れる水準にある。世帯年収 1200 万円という経済的余裕から自分の食費節約への動機は薄いが、社会全体への政策効果という視点から評価している。「逆進性の緩和」という言葉が、食料品消費税評価の核心として出てくるのは 100 名中でも数少ないパターンだ。

FD：高原における消費税は「逆進性という政策的問題を認識した上で、自分より低収入層への効果として評価する」という社会政策的な位置づけになっている。自分の家計への効果より社会全体への意義が先に出てくる点が、他の回答者と大きく異なる。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「1%案は財政リスクを抑えながら低収入層に早く届ける合理的な政策判断として評価します。財源の手当てと経済成長への投資をセットで示してほしいです」と述べた。

推論：財政リスク・低収入層への効果・財源の手当て・経済成長という複数の政策的観点が並立している。経営企画としての思考習慣が政策評価に直接反映されており、消費税単独ではなく財政全体の整合性という文脈で評価されている。

FD：高原の高市評価は「1%案の財政的合理性は支持するが、財源の手当てと経済成長への投資もセットで」という経営企画的な包括的要求だ。100名の最後の回答者として最も政策的視野の広い評価を示しており、食料品消費税への賛成が財政政策全体の整合性という枠組みで語られている。

【全体総括】

根拠：「1%案は財政リスクを抑えながら低収入層に早く届ける合理的な政策判断」と締めた。「税率ゼロという特殊な設定は通常の税率変更より複雑な対応が必要になる可能性があります」という分析が、説明前から自ら出てきた。

推論：高原を貫く行動原理は「経営企画として財政リスク・システム複雑性・逆進性緩和という複数の政策的観点から1%案を多角的に評価し、財源の手当てと経済成長への投資をセットで求める」だ。生活者としての食費切迫感がなく、評価の軸が完全に政策的合理性に向かっている。

FD：高原晴美を特徴づけるのは「経営企画として財政リスクとシステム複雑性を自ら分析し、逆進性緩和という社会的意義も認識した上で1%案を多角的に支持し、財源の手当てと経済成長への投資をセットで求める49歳」だ。「財政リスクを抑えながら低収入層に早く届ける合理的な政策判断」という言葉に、100名の最後の回答者として最も政策的視野の広い評価が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

高原晴美：会社の経営企画部門で働いています。夫も会社員で共働きです。子どもが21歳と19歳で、二人とも大学生です。柏に住んでいます。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

高原晴美：もちろんです。高市総理の食料品消費税ゼロの公約も、最近の 1%案の議論も把握しています。経営企画として税制動向は常に追っています。

M：知っていることを教えてください。

高原晴美：高市総理が食料品消費税ゼロを公約として掲げ、政策実現の過程で様々な制約から 1%案が浮上ってきているという流れですね。財政的な観点と実務的な観点の両面で注目していました。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

高原晴美：共働きで子どもが大学生なので、食費は月 10～11 万円くらいかかっています。消費税が下がれば節約にはなりますが、我が家への影響は相対的に小さいと思っています。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

高原晴美：評価します。個人の食費節約という観点より、社会政策として低収入層への恩恵が大きいのと思います。消費税は逆進性がありますし。

M：なぜそう思いますか？

高原晴美：消費税は所得に対する負担の比率が低収入者ほど大きい逆進性があります。食料品の消費税を下げることは、特に低収入層の家計への恩恵が大きい。政策として意味があると思います。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

高原晴美：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

高原晴美：驚かないですね。ゼロにすることの実務的・財政的な困難さは最初から想定していたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

高原晴美：評価します。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

高原晴美：知りたいです。財政的な理由かシステムの理由か、どちらかと思っていましたが。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

高原晴美：なるほど、POS システムの改修コストと期間の問題ですね。経営企画の仕事でシステム変更のコストと時間を管理することがありますが、税率ゼロという特殊な設定は通常の税率変更より複雑な対応が必要になる可能性があります。1%なら通常の税率変更の範囲内で処理でき

ますが、ゼロは例外的な扱いになりやすい。財政リスクを抑えながら半年早く実現できるなら、1%の方が合理的な政策判断です。特に低収入層に早く届けるという観点からも。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

高原晴美：そうですね。財政リスクを抑えながら半年早く低収入層に届けるなら、1%の方が優れた判断です。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

高原晴美：早く確定してほしいですね。政策の不確実性は経済全体にとって好ましくないのです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

高原晴美：消費税の仕組みから逆進性の問題、財源としての役割まで把握しています。会社の経営企画として税制変更が事業に与える影響を常に分析しています。食料品の軽減税率の線引き問題も、導入時から注目していました。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

高原晴美：月 10～11 万円の食費で、消費税が 1%変われば年間 1 万 2 千円程度の節約になります。我が家にとっての影響は相対的に小さいですが、逆進性の緩和として低収入層への政策効果は重要です。

M：その情報はどこから？

高原晴美：ニュースや経済情報を日常的に追っています。経営企画として政策動向は仕事の一部でもあります。

M：何か実感として感じているものはありますか？

高原晴美：物価上昇は感じています。食費・光熱費が上がっていますし、子どもの大学費用も増えています。ただ、我が家の場合は相対的に対応できる水準です。より収入の少ない家庭への影響が大きいと思っています。

M：それについてはどう思いますか？

高原晴美：消費税が下がれば低収入層ほど恩恵が大きい。社会政策として食料品消費税の引き下げは意義があると思います。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

高原晴美：就任前から経済政策に積極的という印象でした。食料品消費税ゼロの公約は「強いシグナルを出した」と見ていましたが、実現への道筋が重要だと思っていました。1%案は財政的

に現実的な修正として評価します。今日の技術的な理由を聞いて、合理的な判断であることが確認できました。

M：経営企画というお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

高原晴美：財政の持続性と経済成長への投資が気になります。食料品消費税の引き下げは財政負担になりますが、その手当てと経済成長への投資がセットになっているかどうか。法人税政策や研究開発投資への姿勢も気になります。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

高原晴美：方向性は良いと思います。今日の技術的な理由を聞いて、システム的な合理性に基づいた判断であることがわかりました。財源の手当ても合わせて示してほしいとは思いますが、政策判断として評価します。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

高原晴美：「1%案は財政リスクを抑えながら低収入層に早く届ける合理的な政策判断として評価します。財源の手当てと経済成長への投資をセットで示してほしいです。政策の一貫性と財政の持続性を確保してください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

高原晴美：経営企画として政策の合理性と財政の持続性を重視しているからです。1%案は技術的・財政的に合理的ですが、長期的な財政運営の方針も合わせて示してほしいです。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

高原晴美：します。夫は「食費が下がれば助かるね」と言っていましたが、私が財政や逆進性の話をする「難しいね」と言っていました。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

高原晴美：「1%案は財政リスクを抑えながら低収入層に早く届ける合理的な政策判断」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

高原晴美：経営企画としてシステム変更のコストと複雑さは日常的に扱っているので、レジシテムの問題はよくわかります。税率ゼロという特殊な設定より1%の方が実務的に合理的ですし、半年早く低収入層に届けられるなら政策として優れた判断です。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

高原晴美：今日の話で1%案の技術的な根拠がわかって、評価が確認できました。財源の手当てと経済成長への投資をセットで進めてほしいというのが最後のメッセージです。

M：ありがとうございました。